

# 徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2013年度 No.67



徳山工業高等専門学校

# 目次

ホームページNews & Topicsで綴る徳山高専この1年……………	1
特集1 アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト2013 全国大会優勝への軌跡……………	11
特集2 全国大会で活躍した部活動……………	16
第39回 高専祭を終えて……………	22
高城寮より……………	24
留学生だより……………	26
就職・進学状況 / 就職・進学試験体験記 本 科……………	30
専攻科……………	36
卒業生だより……………	39
徳山高専同窓会「高城会」から……………	42
新任者紹介……………	44
図書館時間外開館補助員の感想……………	48
編集後記	

※注（本文記事中略称）

ME＝機械電気工学科 IE＝情報電子工学科 CA＝土木建築工学科

## 徳山高専この1年

※注 学年等は開催時

### 留学生のつどい開催

2013年1月19日



大寒を間近に控え、寒さ厳しい中、晴天となった1月19日（土）、19回目となる「留学生のつどい」が本校の学生食堂で開催されました。この会は、留学生が日頃からお世話になっている方々をお迎えし、感謝の気持ちを表すと共に、交流を図るための毎年恒例のイベントで、3月に卒業する留学生の送別会も兼ねています。本校の留学生にも多くの支援を頂いている「徳山高専テクノ・アカデミア」の小野会長のご挨拶に始まり、お世話になっている先生方からも思い出のスピーチをいただいて、和やかに進んでいきました。また、留学生が作成したスライドショーやクイズ大会なども行われ、趣向を凝らした演出で笑顔の絶えない温かいひと時となりました。

### キャンパスベンチャーグランプリで入賞

2013年1月25日



日刊工業新聞社主催第11回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)中国の表彰式が広島でありました。応募総数108件（17の大学高専）の中から16件が入賞し、機械電気工学科3年の西村礼貴君が提案した、キャリアバッグの背面内部に重量センサを搭載した「重さが量れるキャリアバッグ」のアイデアが佳作に選ばれ表彰を受けました。飛行機の機内持ち込みに重量制限がある場合など、バッグに荷物を入れると直ちに重量を確認できる機能をもたせることで重量制限を気にすることなく旅を楽しめるというもので市場ニーズが高いと評価されました。

### 全国高専小中学生向理科技術教材開発コンテストで最優秀賞！

2013年1月25日



全国高等専門学校第1回小中学生向理科技術教材開発コンテストが実施され、全79作品の中から本校学生提案の力学教材「チャレンジ!ザ・トラスタワー」が最優秀賞に選出されました。（環境建設工学専攻科2年中塚萌さん、杉山泰基君、同1年西岡祐希君、土木建築工学科5年高橋のりかさん、高橋航貴君、福田友紀君）本教材では、身近にある材料を使って三角形（トラス）を積み重ね、タワーの高さを競いますが、力学現象の再現性や経済性はもちろん、教員の負担を大幅に減らす工夫まで、アイデア満載です。この教材は「難しいけど面白い」と、昨年実際に体験した小中学生から多くの高い評価を得ています。

### 平成24年度パテントコンテストで特許出願支援対象者に選出

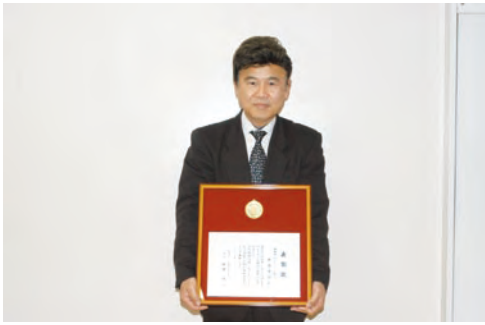
2013年1月28日



1月28日に行われた平成24年度パテントコンテスト表彰式において、機械電気工学科3年の河野弘基君と機械電気工学科2年の国安佑太君がそれぞれ「鍵の開閉を記憶する鍵ホルダー」と「手動式自動クリーニング黒板拭き」の発明で特許出願支援対象者に選ばれ表彰されました。今後はパテントコンテスト主催者からの支援により、特許出願・審査請求を行い特許権の取得を目指していくことになります。河野君は主催者賞の工業所有権情報・研修館理事長賞も受賞しました。

## 市体育協会の体育功労賞を受賞

2013年2月23日



土木建築工学科の佐賀孝徳教授が、(財)周南市体育協会の平成24年度体育功労賞を受賞し、2月23日に周南市新南陽ふれあいセンターで表彰式が行われました。これは、長年にわたり、周南市バレーボール協会の役員として、地域スポーツの発展とバレーボール人口の拡大に貢献したことが認められたものです。全国高専体育大会で上位の成績を残し続けた実績や、周南ジュニアバレーボールクラブの指導育成で、選手や指導者の育成に努めていることなど、周南市の体育振興に貢献した功績を表彰されました。

## 徳山高専産学交流会を開催

2013年3月11日



遠石会館で徳山高専産学交流会が開催されました。基調講演では、広島大学産学・地域連携センターの橋本律男教授に地域企業に対する大学の取り組みについて、株式会社丸屋本社の玉川恵社長に百貨店撤退後の街の再生について、それぞれお話しいただきました。来場された方は熱心に耳を傾け、周南地域の活性化に対する企業や行政、市民の方の関心の高さがうかがえました。講演前には共同研究成果のパネルディスカッションもあり、大変有意義な交流会になりました。

## 卒業式・修了式を挙行

2013年3月14日



第35回卒業式及び第17回専攻科修了式が挙行されました。本科ではモンゴル、カンボジアからの留学生を含む123名が卒業証書を、専攻科では33名が修了証書とJABEE「設計情報工学」プログラム修了証を受け取りました。式場前面のスクリーンには、壇上で一人ずつ校長先生から証書を手渡される姿が映し出されました。式終了後には、後援会の主催により祝賀会が行われ、先生方や同級生と名残を惜しんでいました。

## 入学おめでとう

2013年4月4日



春の日差しに包まれ、桜の花びらが風に舞う4月4日、第40回入学式・第19回専攻科入学式が行われました。本科には、機械電気工学科40名、情報電子工学科40名、土木建築工学科40名、カンボジアからの留学生1名が、専攻科には、機械制御工学専攻5名、情報電子工学専攻5名、環境建設工学専攻8名、合計139名が入学しました。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

## 新入生合同合宿研修を実施

2013年4月8日～9日



入学式から1週間を待たずに、新入生は山口徳地青少年自然の家において1泊2日の合宿研修を行いました。

1日目の活動はオリエンテーリングを行いました。好天に恵まれ、さわやかな春山で汗を流し、好スコアを出すグループが多くありました。夜の活動では、本校恒例となっているクラス対抗での長縄跳びや校歌斉唱対抗戦を、サポートの上級生とともに行いました。最初は戸惑っていた新入生も、練習後の対抗戦では各クラスとも負けないうらい元気よく校歌を斉唱し、熱戦を繰り広げました。

2日目は野外炊飯を行い、焼きそばを作りました。2日間の共同生活を通じて、新入生にとって、良いアイスブレイキングとなり、新生活をスタートさせました。

## 日本語検定「東京書籍賞 優秀賞」受賞！

2013年4月19日



平成24年度第2回日本語検定において、「東京書籍賞 優秀賞」を受賞しました。これは、本学受検者全員の成績が優秀であったことが認められての団体表彰です。本学では、日本語の総合力を測定する日本語検定を、第1回目から継続して受検をしています。今回の受賞は、学生のみなさんの努力が確実に実を結んでいる証しでもあり大変うれしいお知らせでした。美しく正しい日本語の使い手になるために、みなさんは是非チャレンジを！

## 2013年建築学会奨励賞を受賞

2013年4月24日



土木建築工学科の平栗靖浩助教が、一般財団法人日本建築学会より2013年建築学会奨励賞を授与されました。建築学会奨励賞は、会員により近年中に発表された独創性・萌芽性・将来性のある建築に関する優れた論文等の業績を表彰するものです。

発表テーマは「環境音の種類と聴取頻度に基づく音環境の意味論的記述手法に関する研究」。

音環境の意味論的記述手法として可聴時間率を定義し、環境音の聴取頻度を量的に記述する新しい手法を提案したこと、また、多段階グループ編成手法や階層型クラスター分析手法などを用いて、多様な環境音を客観的に類型化する手法を提案したこと、この提案に際し、提案に至るまでの卓越した努力や丹念な調査が評価されました。

## 中国・四国地区専攻科生研究交流会に参加

2013年4月26日～27日



中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会が4月26日（金）と27日（土）の2日間にわたり、広島市で開催されました。専攻科2年生は全員参加し、口頭またはポスターでこれまでの研究成果を発表しました。専攻科2年生はこれから学位授与申請等に向け、より一層研究に磨きを掛ける必要があります。今回の交流会では活発な質疑応答や意見交換がなされ、いい刺激が得られたようです。初日の夜には情報交換会が行われ、交流を深めました。趣向を凝らした各校の専攻科紹介は大いに盛り上がりしました。

## 総合優勝IE5! 新入生歓迎クラスマッチ!

2013年5月8日



初夏を思わせる陽気の中、本校恒例行事、新入生歓迎クラスマッチが学生会主催で開催されました。開会式では、井上校長寄贈の「新優勝杯」が学生会長から紹介され、拍手が湧く場面もありました。

競技は、リレー、長縄、バスケ、ドッジ、サッカー、バレー、ソフトボールで争われ、各会場において熱戦が繰り広げられました。

上級生の意地が後輩に勝っている結果が多数の中、応援の声も一際大きかったIE5が、チームワークを武器に他を押さえ、総合優勝を果たしました。

IE5の優勝は、平成24年5年生送別クラスマッチ優勝からの連覇達成となり、クラス全員で喜びを分かち合いました。

## 山陰の芸術と花の楽園でリフレッシュ

### 留学生見学旅行 in 鳥取&島根

2013年5月11日～12日



5月11日、12日に1泊2日で留学生5名、チューター5名、教職員5名で山陰に留学生見学旅行に行きました。

初日は、鳥取砂丘にある「砂の美術館」で砂の彫刻を鑑賞し、松江に移動。松江駅近くの会議場で有意義かつ楽しい研修をしました。その日の夕食は魚介類を中心としたバイキング料理で、おいしさに参加者全員舌鼓を打っていました。

2日目は、安来にある「足立美術館」で素晴らしい日本画と美しい日本庭園に感動した後に、再び鳥取に戻り、「とっとり花回廊」という日本最大級のフラワーパークを訪れました。突き抜けるような青空の下、色とりどりの花の中を散策し、いいリフレッシュになりました。



## 平原地区合同環境美化作業に参加【徳山高専学生会】

2013年5月25日



平原地区合同環境美化作業が行われました。

本校の通学路となっている地区の老人会「平原寿会」が主催する本活動も今年で13年目となり、本校学生会の47名と徳山大学から多数の学生が参加し、道路沿いや階段のゴミ拾い・草引き、側溝の枯れ葉や砂利を取り除きました。日頃お世話になっている地域の方との交流も深まり、有意義な作業となりました。

## 廣中・長嶺組がインターハイ・ソフトテニス競技に出場決定

2013年6月1日～3日



宇部マテ“フレッセラ”テニスコート（山口県宇部市）において『第64回山口県高等学校総合体育大会（ソフトテニス競技）』が開催され、情報電子工学科2年廣中涼吾君と土木建築工学科2年長嶺晃樹君のペアが個人の部で3位に入り、インターハイ出場を決めました。また、本校ソフトテニス部としても好成績を収め、クラブ創設以来最高の成績となりました。

## 徳山高専テクノ・アカデミア総会を開催

2013年6月10日



平成25年度徳山高専テクノ・アカデミア総会が遠石会館で開催されました。基調講演には、三重県多気町役場まちの宝創造特命監の岸川政之氏、中国経済産業局総務企画部長の塩田康一氏をお招きし、テクノ・アカデミア会員企業をはじめ、地元企業や行政職員、高校生など約210名が聴講されました。

岸川氏の講演では、高校生レストラン「まごの店」や「せんぱいの店」、「まごジェル」など産学官が連携した地域おこしの取組みを、塩田氏の講演では、政府の経済政策についてお話いただきました。

また、講演に引き続き行われた情報交換会では、参加いただいた方々が交流をはかられ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

## 団体4競技が優勝！中国地区高専体育大会

2013年7月5日～7月7日



中国地区高専体育大会（主管校：松江高専、協力校：米子高専）において、団体4競技が優勝（ハンドボール部、テニス部、バドミントン部、野球部）、6競技が準優勝（陸上部、女子バスケットボール部、バレーボール部、ソフトテニス部、サッカー部、柔道部）を果たし、優勝4競技と準優勝の柔道部が全国大会への切符を手に入れました。

また、個人戦においても、テニス部、バドミントン部、陸上部、ソフトテニス部、柔道部、剣道部、水泳部の7競技から多くの選手が全国大会へ出場します。

8月中旬から東北地区において開催される全国大会では、日頃の練習の成果を発揮し、中国地区代表としての誇りを持って戦ってきます。

## 留学生のふるさと展を開催

2013年7月14日



徳山駅ビル2階市民交流センターにて、留学生のふるさと展を開催しました。このイベントは、母国から離れて徳山高専で学ぶ留学生と市民の方との交流を深めることを目的に開催しており、10回目の開催となった今年は、4ヶ国4名の留学生がサテライト委員の学生と協力して、母国の歴史や文化などをプレゼンテーションで紹介しました。来場された方は、遠い異国の話に熱心に耳を傾けており、留学生と市民の方との親睦が深まる有意義な会となりました。

## 第1回校内見学会開催

2013年7月20日



第1回校内見学会を開催しました。猛暑の中、県内外から中学生、保護者等あわせて約400名の参加者がありました。

参加者は、学校紹介、各学科の特色を生かした企画・体験コーナー、学生食堂体験、学寮見学等、キャンパスを自由に探検し、どの企画も多くの中학생で賑わいました。

高専教員がどのような研究に取り組んでいるかを紹介した「研究室カード」を今年も作成し、各企画を訪ねてきた参加者に配布しました。また、研究室カードを集めるともらえる徳山高専オリジナルグッズも好評でした。

## 平成 25 年度第 1 回顧問会議を開催

2013年8月7日



平成 25 年度第 1 回顧問会議を開催しました。この会議は徳山高専の教育・研究活動等に対して外部の有識者からの検証を受けるために開催されたもので、7名の顧問が出席しました。平成 24 年度「高等専門学校機関別認証評価」評価結果報告と平成 25 年度「年度計画及び各部署の PLAN」、平成 26 年度学生の募集活動、学生のキャリア支援活動、学生の進路状況についての説明に対し、顧問からは、活動報告への高い評価や、社会的評価に関する質問、また、地域に根ざした高専の在り方など、様々な視点から忌憚のない提言があり、活発な意見交換が行われました。

## 『まちなかの学生設計発表会』を開催

2013年8月9日



土木建築工学科では、徳山駅ビル2階市民交流センターにて、『まちなかの学生設計発表会』を開催しました。発表会には、周南市役所のお二方、民間の方のお二方を審査員としてお招きし、5年生の創造演習と3年生の工学デザイン基礎Ⅲの前期最終授業の位置付けで、各学年4班ずつの発表を行った後、全班の作品のポスターセッションを行いました。5年生は、今年度のデザコンの課題である、『未来の町屋商店街』に、3年生は、第27回日本工業大学建築設計競技のテーマである『発見する家』もしくは、第4回高校生の「建築甲子園」の課題である、『燃えろ！建築甲子園“地域のくらし”』にそれぞれ取り組みました。新しいアイデアをひねり出すこと、それを分かりやすくまとめてプレゼンテーションすること、いずれも難しいことを実感したことと思います。これを糧に、学生、教員双方、今後も鍛錬を誓った一日でした。

## 県内 3 高専合同説明会開催

2013年8月31日



ザ・モール周南において、宇部高専・大島商船高専とともに、「集まれ！未来の創造力！」と題し、3高専合同説明会を開催しました。巨大 UFO キャッチャー操作体験、距離当てクイズ、金メッキ・電磁波の実験教室、パネル展示等を行いました。台風が心配される中での開催でしたが、幼児から大人まで約650人の来場者で賑わい、どの企画にも興味を持って参加いただき、大盛況となりました。

## 徳山高専・宇部高専合同研修会を開催

2013年9月3日



第3回徳山高専・宇部高専合同研修会を開催しました。この合同研修会は教育研究や業務の効率化・高度化を目的とし、平成 23 年度から実施しています。今回は、e-learning をテーマとして、両高専に導入されている学習管理システム WEBCLASS の利用法について焦点を当てた内容となりました。午前中に、WEBCLASS の活用事例の紹介を福島高専一般教科の布施雅彦准教授にご講演いただき、午後からは教材配布に関する簡単な実習を行いました。この研修会には、両高専から総勢90名の教職員が参加し、e-learning の活用に関して理解を深める有意義な研修会となりました。



## 中学生が職場体験学習

2013年9月17日～22日



9月17日から3日間、岐陽中学校2年生2名、9月18日から5日間、周陽中学校2年生3名を職場体験学習として受け入れ、本校で色々な体験学習をしてもらいました。期間中2日間は2校合同で体験学習を行いました。すぐに打ち解けて5人が協力をして実習を行っていました。ものづくり体験では機械やコンピュータ操作の難しさや、完成した喜びを、環境整備では体を動かし、汗を流す大変さを体験してくれたようです。今回の体験がこれからの学習に少しでも役に立つことを願っています。

## 周南市木村市長を表敬訪問 全国高専体育大会優勝報告

2013年9月24日



この夏、東北地区で開催された第48回全国高等専門学校体育大会において優勝した

【団体競技：ハンドボール部、テニス部】

【個人競技：陸上部、バドミントン部、テニス部】

の出場選手と井上校長、顧問教員が周南市役所を訪問しました。木村市長からは、素晴らしい成績と活躍に対する労いの言葉をいただき、選手達は来年に向けての活躍を誓っていました。

## 留学生交流シンポジウム～徳地青少年自然の家～

2013年10月12日～14日

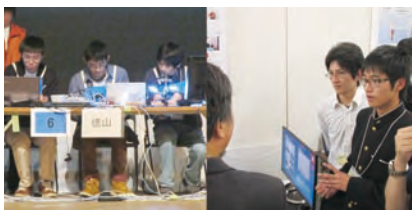


留学生交流シンポジウムが徳地青少年自然の家で行われました。中国地区8高専で学んでいる留学生と日本人学生の交流をもとに、国際理解とグローバル化について考える企画で、本年度で3回目になります。8高専から、留学生28名、日本人22名が参加しました。初日は自己紹介の後、BBQを行いました。2日目は本校卒業生の森岡佑太さんの講演とJICA小野万里さんの講演をもとに、国際化、国際格差の問題についてディスカッションを行い、グループ単位でプレゼンテーションを行いました。最終日は野外活動を行い、留学生同士、留学生と日本人学生がより緊密になり、有意義な研修となりました。

## 全国高専プログラミングコンテスト

### 競技部門特別賞受賞

2013年10月13日～14日



全国高等専門学校第24回プログラミングコンテストの本選が北海道旭川市の旭川市民文化会館で行われました。本校のチームは競技部門と課題部門に出場しました。今年の競技部門はサイコロを並べた画像でできるだけ多くの情報を正確に送るという競技でした。競技部門チームは第1回戦では勝ち残れなかったのですが、敗者復活戦から勝ち進み、決勝戦で6位となり特別賞を受賞しました。また、課題部門チームは「RAZIOくんーラジオ体操支援システムー」を出展し敢闘賞を受賞しました。

## 「徳山高専テクノ・アカデミア特別セミナー」を開催

2013年10月15日



遠石会館において「徳山高専テクノ・アカデミア特別セミナー」が開催され、約200名の参加がありました。

基調講演では、日本エネルギー経済研究所研究主幹の柳澤明氏に「日本経済の動向とエネルギー情勢」について、周南市中心市街地整備部主査の中村充孝氏に「周南市制10周年とこれからの中心市街地について」それぞれ講演をいただきました。来場された方は熱心に耳を傾け、周南地域の活性化に対する企業や行政、市民の方の関心の高さがうかがえました。講演後にはテクノ・アカデミア共同研究・産学連携活動最新成果のミニポスターセッション及びテクノ・アカデミア就活キャリア教育が開催され非常に有意義なセミナーとなりました。

## 全国高専ロボコン2013「Shall We Jump? (シャル・ウィ・ジャンプ)」出場決定!

2013年10月20日



柳井市体育館において、中国地区高専ロボコン2013「Shall We Jump?」が開催されました。今回の競技内容は、生き物を模したバラエティあふれるロボット達が、高専生と協力して縄跳びを一緒に回しながら跳び越え、最後にジャンパーロボットが連続ジャンプに挑戦するものです。

徳山高専のロボット「チュー目!!!」は軽やかですばやい足回りとジャンプが、「色とりどりイ」は羊とオオカミの微妙な関係ながら仲の良いコンビネーションが、観客の興味を引き注目の的となりました。

競技結果は、「チュー目!!!」が準優勝、「色とりどりイ」がアイデア賞と特別賞を受賞し、「色とりどりイ」の全国高専ロボコン大会への出場が決定しました。

## 釜一電子デザイン高校生来校

2013年10月21日



大韓民国釜山市の釜一電子デザイン高校生徒7名と教員3名が本校を訪問しました。この高校は協定を結んでいる徳山大学との提携校であり、本校訪問は昨年に続き3回目です。

来校した高校生は1年生の英語の授業に参加し、本校学生とグループディスカッションをしたり、寸劇をしたりして交流しました。そして、実習工場で本校2年生の機械実習を見学した後、本校学生の手伝いでロボット製作を行いました。短時間でしたが、有意義な交流の時間となりました。

## JICA青年研修でカンボジアから16名が訪問

2013年10月23日



JICA青年研修事業として、カンボジア王国職業訓練教育研修のため16名の研修生が本校を訪問しました。この研修は10月17日～29日まで山口県内の職業教育に関する機関を訪問し、カンボジアでの職業教育を向上させることを目的としています。16名の研修生は本校の学校紹介の後に、事務部門、教室、実験室、実習工場を見学し、設備機器の説明を受けました。また、機械電気1年生の機械実習、同3年生の機械制御、情報電子4年生のコンピュータ制御、土木建築3年生の情報処理の授業を参観しました。参観後、カンボジアからの留学生コン君も交え、質疑応答が行われ、高専教育への期待と高専との交流の希望について要望が寄せられました。

## MC Perry High SchoolでDancing (1年2組自己啓発推進週間)

2013年10月24日



今年度から実施している自己啓発推進週間を利用して、10月18日、1年2組の学生たちが岩国基地内にあるMC Perry High Schoolを訪問しました。英語でのコミュニケーションには苦勞していましたが、PEP Rallyで綱引きやダンスに参加させてもらい、とても楽しく交流ができました。

この自己啓発推進週間は、学生自身が積極的に「自分自身の未来の基となる活動」を行う期間として、前期、後期にそれぞれ設けられており、学生が有効な活動を計画できるよう、補講や補習、集中講義や工場見学などのイベントが用意されています。

## 第39回高専祭「39magic」開催

2013年11月2日～3日



11月2日(土)、3日(日)の2日間、学生会主催の最大イベント「高専祭」が開催されました。メイン企画「進撃のトロッコ」は、動くトロッコに乗って、目の前のスクリーンに映し出される森の中をお化けを倒しながら突き進むシューティングゲームで、大盛況でした。

また、同日開催の周南ロボコンをはじめステージ企画やバザー、ライブ、マジックショーを、サンキューの思いを込めて開演しました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

## 美術の佐古先生が絵本を出版

2013年11月15日



本校で美術の非常勤講師をお願いしている佐古淳子先生が、絵本『大きな木』を出版されました。この本は日本移植支援協会が発行したもので、佐古先生は絵を担当されています。改めて命の意味について考えさせられる内容です。全国の図書館や学校に配架されています。

## 「ロボコン」スペシャルイベントを開催

2013年11月17日



周南市一番街商店街において、「ロボコン」スペシャルイベントを開催しました。このイベントは、本校が舞台となった映画「ロボコン」の公開10周年を記念して第5回周南「絆」映画祭共催企画として開催しました。

午前中は、今年度の中国地区高専ロボコンで準優勝した「チュー目!!!」と、昨年度の高専ロボコン全国大会に出場した「メカレオン倶楽部」のデモンストラーションが行われました。午後からは、「周南ロボコン」で勝ち上がった上位チームによるトーナメントが行われました。

会場は寒さを吹き飛ばすほどの熱気に包まれ、大盛況のうちに閉幕しました。

## 全国高専ロボコン2013「Shall We Jump?」優勝!

2013年11月24日



全国57校62キャンパスの高専が参加する全国高専ロボコンにて、徳山高専のロボットが17年ぶり2度目の優勝を果たしました! 同大会は、全国8地区の予選を勝ち抜いた25チームが、ロボコンの聖地、国技館に一同に集結し開催されました。競技内容は、生き物を模したバラエティあふれるロボット達が、高専生と協力して大縄跳びをする競技で、最後にジャンパーロボットが連続ジャンプに挑戦するものです。見事優勝を果たした徳山高専チームの快挙に、会場全体から惜しみない拍手と歓声が上がリ、感動に包まれました。



## 初優勝!ハンドボール部! クラブ対抗駅伝

2013年12月14日



肌寒さと風はあるものの、例年にない好天候に恵まれた12月14日(土)、第31回クラブ対抗駅伝が開催されました。(全33チーム参加,学外参加:東洋鋼鈹チーム)

今大会は、1部では1区から4区までタスキをつなぐ度にトップが入れ替わる展開でした。5区と最終区間では、優勝争いをするハンドボール部と野球部の選手が先頭集団から抜け出し一騎打ちの勝負となりましたが、初優勝に燃えるハンドボール部が僅差で勝負を制しました。

また、2部では1区から先頭を走った卓球部が10年ぶりに大会記録を更新、女子の部では各区分全てでトップの入れ替わる中、最終区大逆転で陸上部女子チームが優勝を飾りました。

また、同日午後開催されたクラブリーダー研修会では、徳山中央病院・集中治療科宮内善豊先生に救急蘇生について講演頂きました。参加した各クラブの顧問、代表学生は、講話後実際に、AEDを使用した緊急時の対応に熱心に取り組みました。

## 外国人による日本語スピーチコンテストでの受賞を報告

2013年12月16日



12月1日、山口市で開かれた「外国人による日本語スピーチコンテスト」(日本国際連合協会山口県本部主催)において、土木建築工学科5年ドルジハンドさんが優秀賞を、また、11月2日徳山大学で開かれた「日本語弁論大会」においても、ドルジハンドさんが「国際ソロブチミスト徳山賞」、情報電子工学科4年イヤローさんが「徳山ロータリークラブ賞」を受賞しました。優秀賞を受賞したドルジハンドさんは、「留学することの価値、私の感じたこと」と題して、母国モンゴルと日本の違い、留学することの意義等を発表しました。

2人は12月16日、校長に受賞の報告をしました。これからの、本校留学生の益々の活躍が期待されます。

## イルミネーションコンテストで Luceがグランプリを受賞

2013年12月25日



11月16日から12月25日までザ・モール周南20周年行事として特別開催されたイルミネーションコンテスト「Star Light Christmas 2013」において、機械制御工学専攻1年生5名が「コンピュータ総合演習」の一環として製作した「色えんぴつツリー」がグランプリを受賞しました。色えんぴつを模した、周囲の4本の塔に手をかざすことにより、中央ツリーの発光色が変化するというオリジナル企画です。他の企画とは異なり、見学者が体験しながら楽しめる工夫が審査員に高く評価されました。子供からお年寄りまで実際に体験してもらい、「高専生の技術力の高さに感心した」という感想も頂きました。

## 特集1 アイデア対決

# 全国高等専門学校ロボットコンテスト2013

## 全国大会優勝

徳山高専のロボットが、17年ぶり2度目の優勝を果たしました。あらゆる試練を乗り越え、感動的な勝利をもたらした高専ロボコン2013。熱戦の裏側では、ドラマのようなロボコンストーリーが…。



### 優勝への軌跡

機械電気工学科助教  
メカトロシステム部 顧問 藤本 浩

昨年の5月初旬、「高専ロボコン2013」の課題は「Shall We Jump?」生き物を模した2台ロボットと3名の選手が協力して縄跳びをし、その速さやジャンプの回数を争う競技として発表されました。競技ルールを目にして我々がほす第一声はいつも決まって「少しは現場のことを考えてテーマを作ってくれないかな!」です。この競技にはここ数年出題者側が何故かこだわり続けている①多足歩行、②コントローラーを使用しないでロボットの操縦を行うことに加え、③ロボットがジャンプして縄跳びをするという3つ大きなハードルが設けられていました。①と②についての対応はこれまでに実績のある方法をロボットに取り入れました。問題は③の縄跳びでした。過去に「ふるさと特急便」という競技でロボットをジャンプさせたことはありましたが、大縄跳びのように何回も、しかもこれを移動しながら行うことはありませんでした。我々がまず取り組んだことは、縄を回したときに床に当たった縄がどのような軌道を描いてロボットの底面を抜けて行くのかを確かめることでした。スロー撮影ができるカメラで何度も何度も実験をして確認しました。その結果、床に当たった縄はあまり跳ること無く、床とほぼ平行に低い位置で走っているという現象をつかみました。そこで、このことを踏まえて、ロボットのジャンプに必要な高さを割り出して、ジャンプ機構を設計しました。ジャンプの方法にはペットボトルに詰めた圧縮空気を塩ビパイプで作ったエアースリ

ンダーに送り、その勢いでジャンプする方式を採用しました。また、ロボットの軽量化のために3Dプリンタで製作したプラスチック製の部品を随所に使いました。このようにしてできあがったのが徳山高専の2チームのロボットで、全国大会優勝の「色とりドリィ」と中国大会準優勝の「チュー目!!!」でした。

ロボットの「色とりドリィ」は縄をジャンプする「ドリィ」と縄を回す「オオカミィ」の2台のロボットのペアで構成されています。「色とりドリィ」は審査員推薦で全国大会出場は果たせたものの、中国大会では2回戦で呉高専のロボットと対戦し前半リードしていたにもかかわらず、結果的に敗退しています。ロボットの走行速度が少し遅かったなど色々と反省すべき点はあるのですが、一番の原因は選手間の連携のまずさや競技ルールの解釈不足などを原因とする人の問題でした。全国大会に向けてはこれらの点を猛省し、ロボットの改良と選手間の動きをできる限り洗練し、タイムを少しでも短縮することに時間を割きました。そのために腰に湿布薬が必要になるほど練習を重ねました。このような取り組みの結果、ロボットの走行は2倍以上の速度に、連続ジャンプ回数も倍の200回以上に改良され、タイムも全国トップレベルの30秒台前半を出せるまでになりました。この時点で全国大会においても、ある程度、他高専と互角の戦いができるのではないかと自信を持てるようになりました。

全国大会はトーナメントによる勝ち上がり戦で優勝までには5試合を戦わなければなりません。また、1回戦から3回戦までは連続ジャンプの回数は変更されるものの、タイムレースで勝敗が決まり、準決勝、決勝では競技時間いっぱいまでに何回連続で跳



んだかにより勝敗が決まる変則的なルール設定でした。要するにこのルールでは、速く走ることができて、安定した連続ジャンプを多くできる能力がロボットに要求されていて、これを満足するチームのロボットでなければ勝ち残っていけないということになります。実はこの変則ルールが後に徳山高専優勝のカギの一つともなりました。

全国大会では、テレビリハーサルを兼ねて実際の競技を想定して行われるテストランがあります。全国大会に入ってから、ロボットの調整は順調で圧縮空気のチャージに気をつける以外あまり心配はありませんでした。しかし、選手達はリハーサルにもかかわらず、大会会場である両国国技館の大きさとNHKの撮影体制の中でかなり緊張していたために、足がガクガクして操縦ミスもありました。（後に選手たちはこの時が一番疲れたと話しています。）また、リハーサルでは、テストラン終了後に、試合中における審判の判断を助けるためにロボットの詳細な動きを前もって説明する時間が設けられます。このとき審判長から我々のロボットに対して、予期しないクレームが伝えられました。その内容とは「縄跳びのタイミングを合わせるのに食品である飴玉を使用するのは如何なものか、試合までに別のものに変更しなさい。」というものでした。実は飴玉をロボットに取り付けた振動板に当てることで縄跳びのタイミングを合わせる方法がユニークだとして、全国大会推薦理由の一つとなっていたので、ここにきてこのようなクレームがつくとはメンバーの誰も予想していませんでした。その結果、順調にきていたロボットの調整の余裕が一気になくなり、慌てて飴玉の代わりに調達できる材料を考えるはめになりました。結局、少々危険を伴うがビー玉が良いのではないかということになり、何とかこの問題を乗り切って試合に臨むことになりました。

1回戦は八戸高専との対戦でした。ドリィの速さは相手のロボットより勝っていたものの、初戦の緊

張から操縦ミスが目立ち、前半は相手にリードされてしまいました。しかし、後半で何とか追いつき辛くも勝利しました。

2回戦は香川高専（詫間キャンパス）との対戦でした。詫間キャンパスはほぼ毎回全国大会に名乗りを上げる強豪校ですが、徳山は初戦の緊張から立ち直り、36秒の好タイムで勝利しました。

3回戦は旭川高専との対戦となりました。3回戦では最後の連続ジャンプが5回から10回になりジャンプの安定性と速さが必要となります。相手のロボットは連続ジャンプの速度こそ早いものの走行の速度で徳山が勝っていましたので、操縦ミスは少しありましたが、無難に勝利することができました。

準決勝の相手は熊本高専でした。ここからの勝敗は競技時間いっぱいまで使った連続ジャンプの回数で勝敗が決まります。連続ジャンプに入った時点では徳山がリードしていましたが、途中ジャンプの速さで勝る相手ロボットに抜かれました。このままでいくと敗戦確実というところで、幸運にもジャンプの安定性に欠ける相手ロボットが競技フィールドから外へ出そうになり審判に制止されたため、100回の連続ジャンプを決めた徳山が辛くも決勝へ駒を進めることができました。



決勝戦は本大会最速を誇る奈良高専のロボット「じゃんぺん」との戦いになりました。奈良のロボットは決勝までに20秒という驚異的なタイムを叩き出していて、誰もが優勝候補として疑わないロボットでした。そのことだけでも徳山にとって不利な状況にあった訳ですが、あろうことか試合直前にロボットの足が動かないという、とんでもないハプニングに見舞われてしまいました。原因は4試合のハードな戦いの中で、ドリィの足を駆動しているチェーンベルトが伸びたために緩んだことにより、チェーンベルトの掛かっているスプロケットとの位置関係がずれたために3足ある右足のうち、真中と後ろ

の足が干渉して全く動かなくなっていました。そこで、仕方なく何とかチェーンベルトを外して sprocket に掛け戻したのですが、このとき完全には元に戻っておらず、後ろ方向にようやく歩ける状態となっただけでした。

「このままでは出走できない。」スタート直前のセッティングタイムで選手がとっさに思いついたのが、ドリィのお尻を進行方向に向けたバックからのスタートでした。バックでのスタートは練習を通じて一度も行ったことはなかったので、選手は不安だったと思います。案の定、それまでの試合を通して最もミスが多い試合となりました。しかし、決勝戦でロボットを何とか動かして勝敗を決したい強い思



「決勝戦ハプニング その1 ドリィの足が動かない!」

いから最後まであきらめずに操縦し、懸命に縄を回し続けました。この時、この思いがドリィに通じたのかスタート時点では前方向に全く動けず、全てバックで走行して戻ってくるしかなかったはずのドリィが、偶然にもバック走行の途中にずれていたチェーンベルトが元の位置に戻るとい、とんでもない偶然を起こしました。そのため、途中から通常の走行が可能となり、折り返しゾーンから前を向いて大急ぎで帰って来るドリィを見たときは、まるでロボットであるドリィが生きているかように感じられま



「決勝戦ハプニング その2 追い抜いたのか?」

した。その後、連続ジャンプで先を走っていた「じゃんぺん」の連続ジャンプがセンサの不調により118回で中断するなど、徳山にとっては奇跡的な幸運にも恵まれて圧倒的に不利であったにもかかわらず、連続ジャンプの回数で、徳山高専124回、奈良高専118回という試合終了3秒前の大逆転劇につながりました。



今回の大会を通して徳山高専のロボットが簡単に優勝できる能力があったとは全く思いませんが、選手たちの“最後まであきらめない”という気持ちが勝利を導いたことは疑う余地のないところであり、“最後まであきらめない”とは、こういうことかと改めて教えてもらった大会となりました。

残念なことに放送時間の関係もあり、NHKの番組では決勝戦の様子はさりと編集されていて盛り上がり欠ける感がありましたが、競技時間残り3秒でのまさかの逆転劇に最後まで観客をドキドキハラハラさせたこの決勝戦は、ロボコンに係わってきた23年間を振り返り私の知る限りにおいても、これまでにない好勝負であったことに間違いはありません。特に番組でも触れられていませんが、地方大会の2回戦敗退チームが戦った全ての相手チームが各地区大会の優勝校であったことを考えると、誰が徳山の優勝を予想したのでしょうか。このことをしても今回の優勝が如何に劇的であったかをわかっていただけたと思います。

## 私の青春

機械電気工学科4年  
メカトロシステム部 部長 山根 真大

私は今回、自身初のチームを率いてのロボコンで、徳山高専17年ぶりの全国優勝を手にした。準備段階は紆余曲折で、作業がままならないことが何度も

あった。それでもここまでやってきて全国優勝という栄誉を手にすることができたのは、ピットで支えてくれた先輩方や後輩の皆、今までずっと熱心に指導して下さった藤本先生と、沢山の部品の加工を手助けして下さった工場の技術職員の方、そして、一緒に出場した二人のチームメンバーである機械電気工学科同級生の横川太一君と機械電気工学科2年生の松村俊志君の尽力のおかげだろう。

ロボコンの競技課題が発表されたその日、私は浮足立っていた。一昨年、先輩のロボコンを眺め、去年、先輩をサポートしてロボコンに参加し、今年、ついに私の出番が来たのだと。そのままの気持ちでチームをまとめる事が上手くいく筈もなく、始めのアイデア出しは混迷を極めた。時間をかけるも結局アイデアはまとまる事なく、ほとんどを私が勝手に決める事となった。

実際に設計の作業に入ると、そのまとまりの無さが更に顕著になっていく。チームもアイデアもあったものではない。メインロボットの設計は私が行うとしても、果たしてサブロボットの設計は誰が行うのか。ここで日頃の、後輩の育成不足が裏目に出た。その設計者の任は数々の部員の手を渡し、経験が浅い2年生（彼が一人目のチームメンバーとなる）が一から担当することになったのだ。その最中も、煮詰めてもいなかったアイデアは次々にダメ出しをくらい、設計の一進一退をひたすら繰り返す日々が延々と続いた。

そして、手探りで設計を行い、やり直す日々が終わりが訪れる。二つのロボットの設計が終わったのだ。私はともかくとして、本来やる予定ではなかった設計を担当した彼も、苦心しながら諦めず、サブロボット（縄回しロボットの「オオカミィ」）の設計図完成まで漕ぎ着けてくれた。怒涛の製作時間の始まりだった。

私たちの製作手法は基本的に三種類ある。一つ目



ピット（支度部屋）でのロボット調整



大会後、NHK山口放送局<sup>ちよう</sup>長アナウンサーと

は、手作業。数が少なく、精度もあまり必要ではない部品がこれに当たる。二つ目は工場依頼。我が校の工場の技術職員の方はロボコンに対してとても協力的で、私達にとっては、製作困難な部品も、二次元図面を添えて依頼すると図面通りの精度の良い部品を作ってくださるのだ。大量に、そして高い精度が必要な部品がこれに当たる。そして最後は、近年新戦力として導入された3Dプリンタだ。この三本柱が、特に最後の二本柱が稼働人数の少ない我が部のロボコンを下から支えてくれていると言っても過言ではない。

この製作期間の最中に私のインターンシップと研修旅行があった。ただでさえ進捗状況は芳しくないのに、ここで二週間近く部室を空け、後輩たちに作業を丸投げする事となる。帰ってきた私を待っていたのは、大量の部品だった。それに囲まれ、歩行機構の組み立て作業を行いながら私は悟った。「このままでは中国大会のスタートラインにすら立てやしない」と。そんな私たちのピンチにさっそうと現れたのが、最後のチームメンバーとなる4年生であり縄回しを担当した、私の親友だった。彼は遊撃として、私の手が回らない手作業の部品、今回のロボットに欠かせないエアシリンダ等をあれよあれよという間に製作してくれた。その基となる初期のエアシリンダは、今も昔も私を導いてくださる5年生の先輩率いるチームが予めジャンプ実験を行い設計してくださっていた。

こうして機体は完成したが、勿論これでは動かない。まだ、回路・プログラム、最終調整が残っていた。いびつなメンバー構成の我々だけでは荷が重く、ここでも先輩方の多大な助力を頂いた。そして、メインロボットである「ドリィ」とサブロボット「オオカミィ」は完成した。中国大会前日のことだった。

ろくに練習もせず挑んだ中国大会は、悲惨だった。あの夏の努力、先輩・後輩・先生方と私たちの結晶



が、ルールの確認を怠るとい一つの致命的なミスで砕け散ったとき、私は自分の馬鹿さ加減を呪った。皆に合わす顔など無い私を、それでも慰めてくれる仲間に対し、私はうずくまることでしか応えることができなかつた。結局私たち「色とりドリイ」は、審査員推薦で全国への切符を手にする事となった。

あの敗北を胸に私たちは必死にロボットを改良し、何百回と練習を繰り返した。剣道場にこもり、先輩方に審判役をしてもらい、万全の状態ですべての大会に挑めるよう自分たちの動きを極限まで効率化し、ルールを体に叩き込んだ。それでも全国大会前日一発目のテストランでは、普段と違うフィールドの状態と国技館の雰囲気呑まれ、私たちの動きは滅茶苦茶だった。そこで私たちを救ってくれたのは、あくまでいつも通りに支援していただけるピットクルーの先輩方と後輩たち、そして、先生方だった。冷静にアドバイスをし、ロボットの調整をサポートしてくれるメンバーのおかげで、私たちは私たちのいつも通りを取り戻した。

そして、波乱万丈だった高専ロボコン2013は、我ら徳山高専17年ぶりの全国優勝でその幕を閉じた。



優勝決定!!

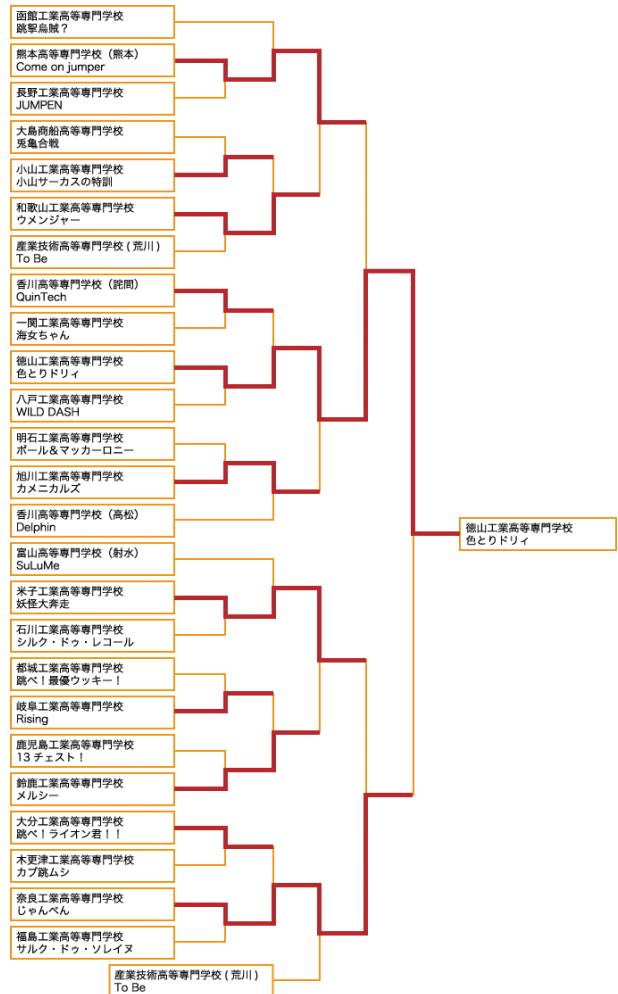
今回の全国優勝というこの結果は、我らが“チーム徳山高専”の総力の結果だと、今、改めて思う。先輩方に助力を乞い、後輩たちの手を借り、先生方に教授を願い、技術職員の方に加工のサポートをいただき、OBに意見を求める。私たちメンバーだけで行ったことなど微々たるもので、様々な人に何度も助けてもらった。こうして歴史は刻まれ、皆が繋がり、総力がどんどん増していくのだろう。

私も今年是最上級生たる5年生に上がり、それと同時に偉大な先輩方をこの徳山高専から送り出す事となる。自分が、このメカトロシステム部を継ぐ後輩のために、チーム徳山高専のために何ができるのか、何をすべきなのかをしっかりと吟味したうえで、

後輩たちを導く先輩でありたい。



トーナメント表



## ハンドボール部



# ハンドボール部が快挙！ 全国高専体育大会

## 3連覇を達成

### ■ 顧問 池田 光優

平成23年度から平成25年度にかけて我がハンドボール部は全国高専体育大会において3連覇を成し遂げました。高専体育大会において3連覇というのは本校初の快挙だそうです。また、高専機構でもその偉業をたたえ特別表彰を行う事になっています。今回は主将達が日本ハンドボール協会の機関誌に寄せたコメントのいくつかを紹介し、その軌跡を追っていききたいと思います。(コメントは原文のまま)

### 平成23年度（関東地区主管：東京大会）

### ■ 平成23年度主将 松永 祐介

私は、このチームで優勝できたことが未だ夢のように感じています。なぜなら、私が入部した当時の目標は「全国大会で優勝」ではなく、「地区大会で一勝」だったからです。

転機が訪れたのは、私が3年生の時でした。それまで、初心者ばかりだったチームに、どっと経験者が増えました。彼らの入部によって、それまで一度も勝利を味わったことのない私達が勝利する喜びを知りました。更に「下級生ながらプレーのうまい彼らに負けない」という気持ちから、上級生がより一層の努力をするようになり、とても良いムードで部活が行えるようになりました。

その結果、昨年度は念願の全国大会出場を果たす

ことが出来ました。しかし、この大会では八代高専に一点差で敗れ、悔しい思いを先輩達にさせていただきました。このとき「来年こそは優勝します」と先輩達と約束をしました。

今年は、これまで指導をして下さっていた池田光優先生が明石に転勤されたので、チーム作りそのものを私が行うことになりました。このような大変な状況でしたが、全員が私を信頼してくれたお陰で、とても良いチームを作ることが出来たと思います。もし、「優勝」という結果がついて来なかったとしても、みんなとのプレーに後悔はなかったのも、とても清々しい気持ちで5年間最後の大会を終えることができたと思います。

一つの試合を、一つのプレーを、チームのみんなと一緒に後悔しないで行うこと。勝つことにこだわることではなく、楽しんでプレーすることにこだわる。これを忘れないで、多くの人にハンドボールをプレーして欲しいと思います。

### 平成24年度（中国地区主管：広島大会）

### ■ 平成24年度主将 山本 昇

今回の全国大会は、昨年の優勝校ということもあり非常に大きなプレッシャーの中での戦いとなりましたが、何とか目標の二連覇を達成することができました。今まで指導して下さった先生方、チーム



平成23年度



平成 24 年度

メイト、そして全国の素晴らしいライバルたちに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今年のチームは非常に明るく、仲の良いチームでした。そして何よりもハンドボールが大好きなチームでした。集中力の弱さや昨年優勝したことによる油断と慢心が出ることもたくさんありましたが、それでも優勝という結果を勝ち取れたのは、常にハンドボールを楽しむ気持ちを持ち続けたからだと思います。

全国の舞台では、全国大会にふさわしい素晴らしいチームにたくさん出会えました。予選で戦った石川高専、熊本高専はどちらも「必ず勝つ」という強い気持ちを持っていました。決勝で戦った大阪府大高専は常に笑顔でハンドボールを楽しんでいて、戦っている僕たちも本当に楽しい試合になりました。そして、中国大会から全国大会まで3度も対戦した米子高専は、まさに最高のライバルであり、同じ中国地区代表として最高の仲間でした。

来年以降もこの大会が素晴らしいチームとの出会いの場であり続けること、そして徳山高専がその素晴らしいチームの一員であり続けることを願っています。

## 平成 25 年度（東北地区主管：青森大会）

### 平成 25 年度主将 國廣 創

昨年の高専大会は現在の5年生中心のチームで優勝し、今大会も同じメンバーで望む予定でしたが、怪我や進路の関係で調整がつかず、4年生以下の選手の成長が必要となりました。そこで、メンバー全員が試合に出て戦えるチームを目標にこの1年間活動し、無事中国大会を勝ち進むことができました。そして全国大会、3連覇の重圧からか調子は上がらず、特に決勝の函館高専戦は厳しい展開でしたが、なんとか優勝することができました。笑顔で引退させてくれた楽しい後輩達、そして今まで徳山高専を引っ張ってきてくれた5年生のみんなには本当に感謝しています。

応援、サポートしてくださった方々には感謝を申し上げます。これからも徳山高専ハンドボール部をよろしくお願いいたします。

### 最後に

この3連覇の中心にはもう一人、現在4年生の池岡結夢君がいます。現在も彼を中心に、「4連覇」を目指して活動を行っています。これからも応援の方、宜しくよろしくお願いいたします。



平成 25 年度

## 全国で活躍した部活動

# テニス部



第48回全国高等専門学校体育大会  
第36回全国高等専門学校テニス選手権大会において

## 男子団体・複で 全国大会優勝

男子団体、苦しい試合の連続！  
2年ぶりの全国大会優勝、その激戦の様子！

### 顧問 櫻本逸男

平成25年度の全国高専大会は、平成25年8月28日～30日に、福島県いわき市の平テニスコートで開催されました。会場の平テニスコートは、福島工業高専のすぐ近くに位置しています。震災から2年後ということもあり、その影響も心配されましたが、全く問題はありませんでした。

昨年度は、中国高専大会で宿敵の宇部高専に決勝で敗退し、団体戦で全国大会に出場できないという悔しい思いをしましたので、今年こそという思いで練習を重ねて来ました。

高専大会の団体戦は、シングルス2試合とダブルス1試合で構成されており、3試合のうち2つを取った方が勝ちとなります。全国大会出場校は、8地区12校ですので、1回戦からの試合の場合、優勝するためには4回勝たなくてはなりません。幸運にも徳山高専はシード校であったため、2回戦が初戦でした。しかし、シードされている場合、1日の合計試合数は少なくなります。初戦は既に1試合を行って体がよく動いている相手と試合をしなければ



団体決勝ダブルス(齋藤・原田)

ならないため、どのチームも戦い難いものです。

その2回戦の相手は、1回戦を3対0で勝ち上がってきた大阪府立高専でした。2回戦までは、8ゲームで試合を行います。戦い難い試合ではありましたが、シングルス1が8-2、シングルス2が4-8、ダブルスが8-4の2対1で何とか勝利することができました。

次の準決勝からは、各試合が3セットマッチとなります。初戦は、途中で全体の勝ち負けが決まっても必ず最後まで試合を行います。それ以降は、試合途中でも勝ち負けが決まった場合は、打ち切りとなります。

準決勝の相手は、徳山と同じシード校の沼津高専でした。2回戦で鹿児島高専を2対1で下しての準決勝進出です。シングルス1が6-1、6-2の2-0、ダブルスが6-2、6-0の2-0、シングルス2は2-6、2-5の不利な状況でしたが、結果を待たずに2対0で打ち切りにより勝利しました。

最後の決勝戦の相手は、同じシード校の石川高専です。これまでの2試合を3対0、2対0の打ち切りで勝ち上がってきた強豪です。徳山高専チームは、運よく準決勝を早く終えることができたため、準決勝での石川高専と木更津高専との試合を見ることが



団体(伊藤、齋藤、原田、上田、山崎、河本)

できていました。その試合で、石川高専のシングルス2とダブルスが強いことがわかり、翌日の決勝戦に備えてオーダーを再構成することにしました。

これまでのオーダーは、シングルス1：伊藤、シングルス2：齋藤、ダブルス：原田・上田、補員：山崎・河本の不動のオーダーでした。それをシングルス1：伊藤、シングルス2：山崎、ダブルス：齋藤・原田と中国大会を通じて初めてのオーダーの組み替えをしました。これが功を奏し、シングルス1が6-0、6-1の2-0、シングルス2が2-6、4-6の0-2、ダブルスが7-6、6-4の2-0の2対1で勝利し、優勝をすることができました。勝敗のポイントはダブルスで、どちらが勝ってもおかしくない対戦でしたが、1セット目をタイブレークで取ったことが勝敗を分けました。しかし、オーダーの組み替えをしていなければどうなっていたかわかりません。今年度の全国大会は、内容的には初戦からすべての対戦が2対1であり、厳しい試合の連続でした。

実は、全国大会の予選となる中国大会でも、準決勝での呉高専との試合で苦戦を強いられました。両シングルスが1対1でダブルス勝負となり、あと1ポイント取られれば負けるというマッチポイントを実に5回も取られながら、そのすべてを凌ぎ、逆転勝利を収めるということがありました。中国から全国大会を通じて、徳山高専チームのメンタルの強さを感じた年でした。



団体決勝シングルス(山崎)

**伊藤・齋藤ペア、奇跡の個人ダブルス優勝！  
伊藤、惜しくも個人シングルス3位！**

個人戦ダブルスでは、伊藤・齋藤ペアが優勝し、昨年の寺本・伊藤ペアに続き2連覇を達成しました。

しかし、この優勝の陰にも、準決勝において5-7とリードされ、あと1ゲームで負けるという状況からの奇跡の4ゲーム連取という逆転劇もありました。

個人戦シングルスでは、伊藤選手が惜しくも優勝した旭川高専の村上選手に敗れて3位になりました。この準決勝の試合が事実上の決勝戦でしたが、伊藤は、1日目の団体2試合、個人ダブルス3試合、個人シングルス2試合の後の8試合目の試合であり、スタミナの面で厳しい試合ではありました。また、同学年で同じ機械工学科でもある旭川高専の村上選手は、伊藤選手と同じくインターハイ選手であり、宿敵のライバルです。順調に全国大会に出ることができれば、最後の年となる来年のシングルスでの対戦が楽しみです。

伊藤選手は、今年度、技術的、精神的にもタフでなければ成し遂げることができない3冠（団体、ダブルス、シングルス）に一歩届きませんでした。最後の年となる来年度はきっと成し遂げてくれることでしょう。

## 選手たちの確実な実力アップ

### ■ 機械電気工学科4年 伊藤壮一郎

全国高専大会を終えて思ったことは、テニス部全体の実力が前年度に比べて確実に上がっていることです。今までの団体戦は、基本的にシングルスで2本取ればよく、ダブルスは負けてもいいという考えでした。しかし今年度は、シングルスをとせばダブルスが取る。ダブルスが落とせばシングルスが取るというように、理想的な団体戦をすることができました。これは日頃からダブルスの練習に取り組んだ成果で、選手たちが強くなった証拠だと思います。また、特に2、3年生は高体連の大会でもトップクラスの成績を収めてくれました。来年度はさらに練習を重ねて、全国高専大会団体戦初の2連覇を達成したいと思います。個人的には、最後の年となるので、後輩達と切磋琢磨しながら、また後輩に抜かされないように努力をして3冠を成し遂げたいと思います。



## 第48回全国高等専門学校体育大会

男子ダブルス、シングルス優勝！  
女子ダブルス優勝！

### ■ 機械電気工学科5年 瀬島史也

多くの方々に支えられたおかげで怪我の状態が良くなり、最後の全国高専大会に出場できたことを本当に嬉しく思います。主戦力選手の多くが抜けた今年も男女団体、シングルス、ダブルスの全6冠を目指してトレーニングを重ねてきました。団体準優勝、シングルス、ダブルス優勝。メダルの数で見ると良く見えますが、明るく、前向きなチームを目指していたために、団体戦を通して最上級生の自分がチームの雰囲気づくりをうまくできなかったことを不甲斐無く思いました。とはいえ決勝戦のレギュラー選手の半数は初めて全国大会に出場した下級生で、緊張しながらも必死に戦っていました。結果には結びつかなかったにしても今大会で得たものは大きく、来年以降の高専大会で力を発揮して、今年の忘れ物である団体の優勝カップを持って帰ってきてくれると信じています。

これから残り短い期間ではありますが、先輩から学んだことを後輩にバトンタッチ出来るように「世界に通用する実践力のある紳士なプレイヤーをめざす人材の育成」を目標に指導を続けていきたいと考えています。僕も感謝の気持ちを忘れず、これからも精一杯の努力を積み重ねて「世界に通用する実践力のある開発型技術者」を目指そうと思います。

### ■ 機械電気工学科3年 山下慶将

仙台市で全国高専大会が行われました。団体戦では3連覇をのがし、自分自身はシングルスで敗れ、不甲斐なく悔しい気持ちしかありません。今年は自分自身のメンタルの弱さを一番痛感しました。そのような面で今回の高専大会は来年への土台になったと思います。来年の高専大会では、団体戦優勝はもちろん、自分自身の個人を含め三冠達成をします。そのためにもがんばります。

### ■ 情報電子工学科2年 中道由菜

私は昨年の高専大会の個人戦では全国大会へ出場できなかったのですが、今年はそのことを目標に練習してきました。私にとっては初めての個人戦での全国

大会だったこともあり、不安や緊張もありました。しかし、いつも指導や応援をしてくださった先輩やコーチ、一緒に戦ってくれたダブルスペアの河口さんなどたくさんの人のおかげで楽しくプレーすることができました。その結果、優勝という記録を残すことができるととても嬉しかったし、もっと強くなりたいと思いました。来年はもっと練習をして団体戦でも出場したいです。それから、ダブルスと今年負けてしまったシングルスで優勝できるように笑顔で頑張りたいと思います。また、この経験を生かして人としてももっと成長していきたいです。

### ■ 土木建築工学科1年 河口みのり

徳山高専に入学して、初めて出場した全国高専大会で優勝できたことは、とても嬉しかったです。正直、緊張と不安でいっぱい、試合の序盤は思うようなプレーができませんでした。しかし、ペアの中道先輩や先生、コーチ、部活の仲間、応援してくださる保護者やOB・OGの先輩方のおかげで最後まで頑張ることができ、決勝戦で勝つことができました。この優勝は、たくさんの人の支えがあってこそだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。来年は、団体とシングルスでも全国に行けるように、またダブルスは連覇を目指して練習を頑張っていきたいです。

### ■ 顧問 柳澤秀明

今年度の全国大会では、男子団体2位、ダブルス優勝、シングルス優勝、2位、女子ダブルス優勝、シングルス2位と良い結果を残す事ができました。男子団体戦では、3連覇を目指していただけに悔しさも残りますが、決勝戦での敗戦を糧に来年度の優勝を目指して、がんばってもらいたと思います。



陸上競技部



第48回全国高等専門学校体育大会

陸上競技  
女子走り幅跳び優勝

陸上競技部は平成25年7月5～6日に松江市で開催された第49回中国地区高専体育大会に於いて総合2位の成績を修めました。また、個人では土木建築工学科4年の清水美咲さんが8月18～19日にいわき市で開催された、第48回全国高専体育大会陸上競技（女子走り幅跳び）に於いて見事優勝を果たしました。

■ 土木建築工学科4年 山本翔太（主将）

今年の高専大会（中国地区大会）も去年と同じ総合2位という結果におわりました。今年こそは優勝という目標のもと選手一人一人が練習に取り組んできましたが、あと一步のところまでとどきませんでした。しかし、去年よりも上位入賞者、全国高専大会出場者が大幅に増え、総合得点も伸び確実に優勝に近づくことができました。陸上競技は個人のスポーツでありながら団体のスポーツでもあります。競技をしているときは1人で相手や自分と戦わなければいけません。その一人一人の力が合わさったときに、はじめてチームとしての結果に繋がります。個人の能力をのばし、それをチーム全体の力にしてより一層強い徳山高専陸上部をつくっていきたいと思います。大会が終わった後、たくさんの選手が悔しいと口にしていました。来年の高専大会こそは去年、一昨年と達成できなかった総合優勝を成し遂げたいと思います。選手全員がその気持ちをもってこれからも練習に励んでいきたいと思っています。

■ 土木建築工学科4年 清水美咲(女子走り幅跳)

「全国高専大会優勝」これは高専で部活をするうえで誰もが憧れ目指すものだと思います。

わたしは昨年度までインターハイ出場を第一の目標に掲げ、努力を重ねてきました。今年度は大学生と同様の立場となり、わたしにとって一番大きな試合である全国高専大会で優勝することを目標として部活に取り組んできました。その目標どおり、女子走り幅跳びの部で全国高専大会優勝をはたすことができました。このような結果を残すことができたのは家族、先生、部員、OB・OGの先輩方、多くの方々の応援のおかげです。

しかし、優勝という響きに喜ぶ一方で、個人の記録を振り返ると自己ベストとは程遠いもので悔しい反面もありました。来年度は最高学年となり、最後の高専大会です。高専五年間の集大成として優勝はもちろん、自己ベストの更新を狙います。最高のパフォーマンスができるよう同級生をはじめ、どんどん記録が伸びてきているたくましい後輩たちと共にこれから一年間、頑張っていこうと思います。

■ 顧問 上 俊二

今年の高専大会陸上競技女子走幅跳は昨年の優勝者（大道さん：近大高専）の出場もなく、5m以上の自己記録保持者は15名中わずか3名、また低学年（1,2年）の出場者が12名と多く、混戦が予想された。試技3回目までの最高記録が4m92、ベスト8の記録が4m61と記録的には低レベルの争いになったが、4回目の試技で清水（徳山高専）が5m03、小倉さん（岐阜）が4m99、5回目の試技で部田さん（松江）が4m95を跳び接戦となった。最後の6回目の試技では部田さんが1cm記録を伸ばし4m96で3位、小倉さんは5mを超えるジャンプを見せるものの惜しくもファールとなり惜しくも2位、そして優勝が決まった清水は最後の試技で5m16に記録を伸ばし、何とか意地を見せてくれたように思います。清水にとって一昨年の優勝に続き2回目の優勝になりましたが、来年度は最高学年になり最後の高専大会となるので、自己ベストの更新と3回目の優勝（特別表彰）を目指して練習に取り組んで欲しいと思います。



# 第39回 高専祭を 終えて

## ■学生会長 山田 光一郎

「ありがとう!!」

高専祭が終わった時にみんなが発していたこの一言に第39回高専祭のすべてが詰まっているように感じます。準備の段階では本当に多くの問題を抱えていましたが、今この文を読んで下さっている皆さんのおかげで次々と解決していきました。それはまるでMagicを見ているかのようなように一度しか、しかもあの場所でしか見ることのできないMagicを見せて下さった皆さんに心の底から感謝しています。

## ■高専祭実行委員長 川端 将大

みなさんは普段から、感謝の気持ちを伝えられていますか？

いつもは恥ずかしくて言葉に出来ない気持ちを、「楽しさ」の恩返しで伝えようと今年はテーマを「39magic」としました。「Thank you」という僕たちの感謝の気持ちは形を変え、みなさんの楽しい思い出となっているのでしょうか？

前日企画のクイズからステージ企画、ファッションショーなどなど去年とは一味違う高専祭に仕上がったと思います！僕の中では間違いなく1番の高専祭でした！

責任感のかけらも無かった去年に比べると、今年のプレッシャーは凄まじいものでした。しかし、学生会メンバーや、先生方、企業の方々や地域の皆様、そして楽しんでくれたお客さん、たくさんの方々を支えられ、高専祭を成功させることができました。「Thank you！」

## ■メイン 河野 弘基

第39回高専祭メイン企画では地元企業の協力を頂き、レベルの高いメイン企画を作り上げることが出来ました。長い時間を費やし他学科の人と一つの物を作り上げることで、他学科の技術の高さを実感しました。また、準備に時間がかかり高専祭当日も作業をしましたが、高専祭の2日間での完成度の違いに、時間の大切さと仲間の有難さを改めて気づかされた2日間であり、貴重な経験

をすることが出来ました。協力してくださった企業の方ありがとうございました。

## ■ステージ 本多 弘樹

アホなことほど真面目にやろうというのがポリシーで、予定を組む能力や、先のことを見据えた行動というのが欠如している部署長でしたが、様々な人のお力を借りて高専祭、成功することができたと思います。

直接手伝ってくれた学生会や高専の人だけではなく、支援していただいたスポンサー企業の皆様や、近隣住民の方々のご理解やご協力と無償の愛で「楽しい」という気持ちが共有できたように思います。

第39回ということで、39magicと銘打たれた今回の高専祭ですが、皆様のご厚意に心より感謝申し上げます。

## ■会場 安永 拓也

今年から新しい試みとして前日企画TCTクイズをやってみたのですが、皆さん楽しんでいただけたでしょうか？想像以上に大勢の人達が集まってくれて僕はすごく嬉しかったです。

当日はあいにくの大雨で、更に初めて徳山大学ポプラ祭と合同で行うということで不安もありましたが、大きな問題もなく無事に終えることができました。本当に良かったです。

これも来場者の皆様方、学生課や教職員の方々や高専生の皆の協力あってのものだと思います。本当にありがとうございました！

## ■美化 清水 美咲

「39magic」このテーマが決定してから高専祭まで本当にあっという間でした。私たち美化部署はこのテーマにちなんで39日前からのカウントダウン看板の設置、早め早めの取り組みを心がけ、いつでも他部署のサポートの回れるように作業を進めました。

また、今年は縦横のつながりそれに加えて徳山大学さんとの合同企画で多くの人と関わる機会をいただき貴重な体験ができました。

最後に実行委員長をはじめとし、企画、運営を支えてくださった方々に感謝申し上げます。

## ■ロボコン 渡邊 一人

昨年先輩方に続くことができるか不安もあり



ましたが、今年も参加者をはじめ、たくさんの方々の協力のおかげで「周南ロボコン2013」を成功させることができました。夏休みの製作教室、徳山小学校での出前授業、大会の運営まで、普段は経験することのできないイベントの企画等を通してたくさんの方々のことを勉強させていただきました。サポートしてくれた方々、そして部署長をさせてもらえたことにとても感謝しています。

#### ■案内 吉永 佐貴

案内部署では、正門の飾り付け、学生課前の階段の装飾、ペットボトルオブジェの製作などに取り組みました。今年初挑戦した企画も多く戸惑うことばかりでしたが、部署のメンバーをはじめとする学生会のみんなにたくさん助けをもらい、無事すべての企画を成功させることができました。39Magicというテーマの通り、「ありがとう」の気持ちの力をこの高専祭で改めて感じる事ができたと思います。支えてくださった多くの方々に、本当にありがとうございました！

#### ■ファッションショー 橋本 帆琴

みなさん、今年のmagic show（ファッションショー）はいかがだったでしょうか？今年はずいぶん楽しいことに例年に比べ出演希望者が多く、2日間にわたってファッションショーをさせていただきました！！

初の試みただただにうまくいくかどうか不安な部分もありましたが、出演者や学生会役員をはじめ、多くの方々ののおかげで最高のショーが出来上がったと思います（^^）♪

大成功できたのはみなさんの温かい応援があったからこそです。

本当にありがとうございました！！

#### ■物品・バザー 平山 裕二

物品バザー部署では、本校学園祭でのバザーの管理、校内外から借用してきた物品の管理等の仕事を行います。その中でもバザーの衛生管理には細心の注意を払い、幾度も各バザーへ徹底指導しました。おかげで問題無く2日間の高専祭が終わったので良かったです。どうか来年度も高専祭とバザーを宜しくお願い致します。

#### ■広報 金田 織音

今年は、新企画として徳山大学のポプラ祭との

コラボ企画も行いました。初めての試みが多く、何度もやめてしまおうと思ってしまった時もありましたが、高専祭当日のお客さんの楽しむ顔が見れて、やってよかった!!!と心の底から思えました。39magic!! です。パンフレット制作につきましては、多くの企業の方々の御協力を賜りました。高専祭に関わってくださったすべての方々に感謝します。

本当に、ありがとうございました。

#### ■スポンサー 本田 もも

最初は、なかなかスポンサーが集まらず不安ばかりでしたが、学生会役員の皆が頑張ってくれたおかげで、目標額を達成することが出来ました。又、協力して下さった企業の方々、ご迷惑をおかけすることもありましたが、いつも支えて下さった学生課や教職員の方々、一生懸命準備した高専生の皆、そして高専祭に足を運んで下さった多くの方々に心より感謝しております。本当に有難うございました！！

39magic !!

#### ■ライブ 天川 大輔

ライブ部署では例年通りのステージの位置を変えること、高専祭中にBGMを流すことを新しく取り組みました。これらを実現するにあたって高専祭実行委員のメンバー、MC 2の松田さん、山根さんをはじめとする企業の方々のサポートは知識のない私を大きく助けていただきました。たくさんの方に支えられて成り立った部署だと感じます。

ステージの音響、magic showの照明に関わったこと、このメンバーで高専祭を作れたことが自分にとって最高の思い出となりました。39 !!



# 「Family ～家族になろうよ～」 高城寮の一年(平成25年度) を振り返って

寮務主事 上 俊二

今年度後期10月より前寮務主事の国重先生が鹿屋体育大学に転勤されることになり、10月からピンチヒッターで寮務主事を引き受けることになりました上(土木建築工学科)です。高城寮では、現在男子80名、女子15名の総勢95名が寮生活を送っています。(H26.1.15現在)

標題の「Family～家族になろうよ～」は今年度の寮生会のテーマ(目標)です。4月8日に行われた寮生総会において、渡辺寮生会長は、「これまで先輩方が築かれた寮の良き伝統を引き継ぎ、共有スペースなども活用して、男子寮・女子寮間の交流も深め、より良い寮にして、仲良く過ごせるようにしましょう」と、テーマの意味を誠実に語りかけました。このテーマを基にと寮生会は今年度1年いろいろな活動、取組みをしてきましたが、特筆すべき事項を3点ほど紹介したいと思います。

まず一つ目は、昨年度までは1年生の挨拶の声が異常に大きく違和感を覚えていましたが、今年度は寮生会の働きかけもあり1年生の挨拶の声の大きさが普通になり違和感のない良い挨拶になっていることです。

二つ目は、昨年度より寮生会を中心に、寮内の清掃点検、ゴミの分別の指導が組織的にうまく行われ寮内の美化が進んだように思いますが、今年度もこの体制が崩されず美化が保たれている点です。

12月4～6日に行われた高専機構の監事監査において、監事の斎藤先生より「寮生が自主的に清掃を行っていて寮内がきれいに維持できている」とのお誉めの言葉をいただきました。

三つ目は、高城寮の学校負担分(公共場所)の電気使用量が昨年度と比べ大幅に減少(電気量は昨年度に比べ-16,027kwh、使用料金は-508,008円)しているとの報告を受けました。これは寮生が日頃から寮内の環境整備ともに省エネに積極的に取り組んできた成果だと思えます。

今年度1年、いろいろな場面で寮生と密接に関わりましたが、「よくやってくれている」というのが率直な感想です。もちろん問題は全くないわけで

はありません。しかし、寮生会を中心に様々な問題を解決し、自分たちの寮を少しでも良くしようとしている姿には感服しています。今年度の寮生会のテーマ「Family～家族になろうよ～」がまさにいい意味で達成してくれているのを日々ひしひしと感じています。以下、今年度の寮生会を中心に、行われた主な行事は、以下のとおりです。

## 入寮式【平成25年4月4日(木)】

桜の花が咲き誇る日に20名の新入寮生を迎えました。保護者、寮務担当教職員、寮生会役員に見守られて、内務部長の天川君の進行で入寮式が始まりました。入寮生を代表して加納萌里さんが宣誓し、暖かい雰囲気での式典が行われました。式典の進行は、今後の寮生活がうまくいくことを示唆しているかのように、寮生会役員の巧みな運営でスムーズに行われました。



【平成25年度新入寮生と寮務教員】

## 新入寮生歓迎マッチ【平成25年4月13日(土)】

今年はサッカー、バスケットボールと尻尾取りで競いました。体育部長の光永君の企画の下、寮生が協力して運営を行いました。競技の後は屋外でBBQを楽しみました。今年は量より質の肉を手配し、とてもおいしいBBQでした。後片付けも時間どおりにきっちり終え、盛会の内に行事を終えることができました。



【新入寮生歓迎マッチ後のBBQの様子】

**勉強会（各定期試験前）**

指導寮生長の大場君、学生相談員を中心に、各定期試験の3週間前から1週間前にかけて恒例の勉強会を実施しました。寮の食堂で20:00～21:30まで、低学年を中心に多くの寮生が参加し、集中して勉強を頑張りました。



【前期中間試験前の勉強会の様子】

**World Cuisine Party【平成25年6月13日(木)】**

前寮務主事の国重先生の提案で、寮の共通スペースにおいて留学生と日本人の交流を主目的としたWorld Cuisine Partyが開催されました。留学生が作ったお国自慢の料理に舌づつみを打ちながら参加者全員楽しいひと時を過ごしました。



【World Cuisine Partyの様子】

**七夕会【平成25年7月11日(木)】**

昨年度意外と好評だったため、今年度も男子寮をホラーハウスに化して肝試しを行いました。女子1名に男子が数名のグループでゴール目指していくのですが、分かっていながらとっても怖い、そして楽しい企画でした。好評につき来年も続行か？



【七夕会終了後の懇親会の様子】

**寮祭【平成25年11月9日(土)】**

今年の寮祭は例年より趣を変えて、体育部長の光永君の提案によるテレビ番組「逃走中」を模した鬼ごっこ（ゲーム）が行われました。当日は秋晴れの天候の中、逃走者はサングラスをかけたハンターから逃げようと決められたエリアの中を必死に逃げ回っていました。この企画も大変好評でスリルとサスペンスに富んだ楽しい企画でした。



【寮祭の開会式の様子】

**予餞会【平成26年1月10日】**

間もなく卒業する5年生を送り出すための予餞会が開催されました。今年はサプライズで前寮務主事の国重先生にも鹿児島から参加をいただきました。今年も準備から企画運営まで、企画部長の恒益君を中心に計画的に、多くの寮生が協力して頑張ってくれました。お笑いライブ、女子寮企画、ゲームなど盛りだくさんの内容で、とてもいい雰囲気の中、最高に盛り上がり、感動あり、涙ありの素晴らしい予餞会でした。



【予餞会での5年生と女子寮生】

この一年間を振り返るとあっという間の一年間でした。高城寮が益々発展するよう、今後ともご支援ご協力のほどよろしく申し上げます。

## 後輩諸君へ

### ワーク・ライフ・バランス

**サマラコーン デイルム**  
(旧姓 ペイリス デイルム)  
Dilum Samarakoon  
(スリランカ)

平成21(2009)年3月情報電子工学科卒業

卒業してから5年も立ちましたね。徳山高専の坂、先生たちの優しい笑顔、いまでもよく覚えています。

私は2009年に卒業した後、広島大学の経済学科に編入しました。高専生としては、変わった道でしたが、おかげで就職はわりと簡単でした。2011年に「チャレンジ精神が優れているから」と日本IBMにSEとして採用されました。現在、社会人として3年弱ですが、仕事はとても楽しくやっています。

ここでさっそく後輩のみなさんにアドバイスです。

私は高専卒業後大学に編入する道を選びましたが、編入試験に何度か失敗し、希望の大学に入れませんでした。そのとき廊下で泣いていたところを担当の原田先生に見つかり、希望していたところよりも違う道をいろいろ教えていただきました。考えたこともなかったものばかりでした。「受験に失敗したからといって、全てが終わるのではない。」と勇気づけられ、次の試験は、次々と合格できました。アドバイスは「困ったときには、先生に相談」ですね。

それではさっそく、本題のワーク・ライフ・バランスに入ります。卒業後は一生懸命仕事しなければいけないと思う方が多いと思います。しかし、なん

でもバランスよくおこなわなければいけません。

仕事も quantity ではなく quality が大事であり、どれぐらい時間をかけてやっても、最後にはやり直しになると意味がありません。

私は2011年に入社したと同時に結婚もしました。それから3年間、毎日ワーク・ライフ・バランスを心掛けています。私の会社は、最近のトレンドのノー・残業会社です。終電まで残っていても残業代はありません。

従ってほとんどの方は19時前に帰宅します。さらに、社内には固定席もありません。従って、毎日会社に行かなくてもよいのです。IT系なので仕事には場所を問わないからです。

そういうところをうまく利用して、私は、自分のバランスを作りました。もちろん、最初は慣れるまで時間がかかりました。

私たち夫婦は共働きなので、ワーク・ライフ・バランスのためにいくつかのルールも設けております。

週末には仕事一切しない、家に帰ってきてから仕事はしないなどです。その分、会社にいる時間を効率よく使っています。私はまだまだルール違反なことをしますが、家庭のためなので、できるだけ守ろうと心掛けています。

皆さんには、結婚も共働きもまだ遠い話かもしれませんが、ワーク・ライフ・バランスは高専生活に当てはまります。

勉強はスポーツ、友達との遊びをしながらバランスよく行うときっともっと楽しくなります。それでは、徳山高専の皆さん、2014年はよい年になりますように。



新入社員研修終了後、同期と (写真中央)



Wedding photo

## 卒業する留学生

## 徳山高専の思い出

機械電気工学科  
ジョン  
NDUMA JOHN NGANGA  
(ケニア)



私は子供の頃から海外に留学することにとっても興味があり、技術が優れている国でエンジニアリングを勉強すればいいなと思いました。そこで日本の製品の良さや技術力の高さから日本に興味を持ちました。そして優れた設備や設計製作の知識を学べば、母国に必ず役に立つことから、日本への留学を決意しました。

最初、徳山高専に入学する前、東京で一年間日本語学校に通って、ひらがなと挨拶からスタートし、日本語や日本の文化を学びました。日本語学校を卒業してから、東京に比べて環境も生活も違う周南市に来て、徳山高専の3年生に入学しました。初めて高専に来た時には、日本語や専門の勉強や異文化のことをとても大変だと感じました。しかし、周りはいいい人ばかりで、話すとすぐ仲良くできました。困っている時には、先生たちとクラスメイトの皆が優しく手伝ったり教えたりしてくれて、学校の生活や授業に少しずつ慣れてきました。皆に支えていただいて、心から感謝しています。

徳山高専に来てから、あっという間に3年間が経とうとしています。これからももっと成長できるように、一步踏み出すことで頑張っていきたいです。卒業後、私は山梨大学に進学します。ここ徳山高専で学んだことを存分に活かして、さらに専門知識を身につけたいと考えています。将来、社会に役に立つ研究者になるために、これからもさらに努力していきたいと思います。徳山高専の皆さん、この3年間お世話になりました。本当にありがとうございました。

My name is osaki. Nice to meet you!  
-Nice to meet you,too! My name is john

チューター  
機械電気工学科  
尾崎 友亮



これが初めてジョン君と交わした言葉です。二年前のことですが、はっきり覚えています。あれから二年経ちました。最初は、年が上なことから敬語で話したりと、何かしら緊張感があったのに対して、今では冗談を言ったり、たわいもない話をするだけでなく、一緒に外食・バスケ・映画鑑賞をしたりします。悩みを打ち明けたり、人生についての話もしています。留学生とチューターの関係から親友という関係になったのは二つの出来事からです。一つ目は初めて周南の街を案内した時です。本屋・駅・スーパーなど、様々な場所を案内して、最後にカレーをおごって一緒に食べました。その時に、互いの趣味などを語って仲良くなったのを覚えています。次に3年の前期中間テストの時です。私は、問題の日本語の意味と過去問の用意、わかる問題を教えて、わからないところはジョン君に教えてもらいながらテスト勉強をしました。教科数も多く、徹夜になる日もありましたが、その困難を乗り越えて、テストの打ち上げに今度はジョン君のおごりで、寿司を食べに行きました。このことで互いに助け合う関係でお互いを必要とすることが、人と付き合うのに大切なことだと教わりました。

彼のチューターになれたことは私の誇りです。ジョン君との生活の日々は私の将来に大きくプラスになるでしょう。彼のおかげで、人間として私は大きく成長できたと思っています。卒業後は、私は就職、ジョン君は進学して別の道を進みます。道は違えど、彼との関係が終わることはないでしょう。ジョン君は日本にまだいるので一緒に遊んだり、いつかジョン君の故郷、ケニアに遊びに行こうと思っています。

ジョン君、あなたに会えてよかった。あなたとの思い出は私の宝物です。いつかまた会いましょう！

## 卒業する留学生

### 高専での思い出

土木建築工学科  
ドルジハンド  
BAVUUDORJ DORJKHAND  
(モンゴル)



2011年4月5日午前11時ごろ徳山駅に着きました。古田先生と田村先生が駅まで向かえに来てくれました。高専は、山の上にあると先輩たちからよく聞いていたので、初めて高専坂を上っても、それほどびっくりしませんでした。そして、寮の方に行き、事務の方から寮について説明を受けてから自分の部屋に入りました。入った時の気持ちは、本当に何とも言い得ない、言葉では表せないほどの気持ちでした。誰かにかわいそうと言われたらすぐ泣いてしまいそうなほど、とてもつらくて、心の中に重たい石が一杯入っているかのような気持でした(笑)。

最初は、毎日、「今日は何が起こるだろう、どうすればいいのだろう。」と考えたり、心配したりする日々が続いていました。運よく、高専に来た当時、二人のモンゴル人の先輩と、一人の先輩のご婦人さんも徳山に住んでいて、心を慰めてくれていました。最初は、この二人の先輩が卒業して、先輩たちとご婦人さんがいらっしやなくなると、とても大変になるだろうと思っていました。しかし、今は全然そうでもなくて、楽しくて幸せで忙しい日々が相次いでいます。なぜならば、いつでも、どこでも、どんな場面でも、私に優しくしてくれる、いつも私の味方である徳山高専の皆さんのことを良く知るようになり、皆さんに囲まれているからです。もう3年目ということでも、高専のことなら全部、私の心に親しくて身近なものになりました。今までの人生の中、勉強の面だけではなく、人間としても一番よく成長を実感し、色々体験しながら理解してきた貴重な3年間でした。

これからどんな人生が待っていても、高専での3年間は、一生忘れない、いや忘れられない忘れてはいけなく考えます。また、徳山高専を卒業したことを誇りに思い、徳山高専卒業生として精一杯頑張り、いい成果を出してきます。また高専の皆に会いに来る日を楽しみにして待っててください。

### チューターから友達

チューター  
土木建築工学科  
岡田 真紀



3年生の始め、私がドージーのチューターになってから三年が経ちました。人見知りで緊張していた私は上手く話しかけることが出来ませんでした。初めての高専で戸惑っているドージーを安心させてあげないといけないのに…と思っていたのが懐かしいです。今思い出すと恥ずかしいですね。

初対面の時のドージーの印象といえば、日本語がすごく上手で、綺麗なお姉さんって感じでした。今でもとても綺麗だけど、あの時と違うのは、お姉さんではなく友達として付き合っていることです。でも、年上ということもあって、私はドージーに頼りっぱなしでした。チューターとしてしっかりしなければいけないのに…。何度も勉強を教えてもらったし、助けられてばかりでした。感謝しています。ほかにも、留学生の旅行の時には初めて行く土地にわくわくしながらいろんな話をしました。バスの中ではトランプをしたり、うたを歌ったり…留学生のみんなと一番仲良くなれた行事でした。また機会があれば一緒に旅行したいです。

初めてドージーと会ってからもう三年だなんて信じられません。すごく短かった気がします。私はチューターとしてドージーを支えられていたかな？あの時もっとこうしてればなって思うことはたくさんあるけど、いつでも変わらないのはドージーのチューターになれて良かったってことです。私がチューターになりますって言って良かった。来年からは簡単には会えないし、いつかはモンゴルに帰ってしまうよね。でも、国が違ってずっと友達だし、モンゴルに遊びにも行きたいです。また日本に遊びに来たときにも久しぶりに会おうって言うてくれるとうれしいな。これから先もずっと私はドージーのチューターであり、友達だから、いつでも頼ってほしいです。徳山高専の、私たちのクラスに入ってくれてありがとう。

## 今年の思い出

### 留学生見学旅行in山陰(平成25年5月11日～12日)

毎年恒例の留学生見学旅行に、留学生・チューター・教職員15名が参加しました。初日は、鳥取砂丘にある「砂の美術館」で砂の彫刻を鑑賞し、松江に移動。松江駅近くの会議場で有意義でかつ楽しい研修をしました。その日の夕食は魚介類を中心としたバイキング料理で、おいさに参加者全員舌鼓を打っていました。2日目は、安来にある「足立美術館」で素晴らしい日本画と美しい日本庭園に感動した後に、再び鳥取に戻り、「とっとり花回廊」という日本最大級のフラワーパークを訪れました。突き抜けるような青空の下、色とりどりの花の中を散策し、いいリフレッシュになりました。



### 留学生のふるさと展(平成25年7月14日)

今回で10回目を迎えるこのイベントは、留学生と市民の方々の交流を図るイベントです。4ヶ国4名の留学生がサテライト委員の学生と協力して、母国の歴史や文化などをプレゼンで紹介しました。留学生と市民の方の親睦が深まる有意義な会となりました。



### 留学生のつどい(平成26年1月18日)

大寒を間近に控え、寒さ厳しい中、20回目となる「留学生のつどい」が本校の学生食堂で開催されました。この会は、日頃からお世話になっている方々をお迎えし、感謝の気持ちを表すと共に、交流を図るための毎年恒例のイベントで、3月に卒業する留学生の送別会も兼ねています。

井上校長の挨拶に始まり、本校の留学生にも多くの支援を頂いている「徳山高専テクノ・アカデミア」の小野会長のご挨拶や、お世話になっている方々からも思い出のスピーチをいただき、和やかに進んでいきました。また、留学生が作成したスライドショーやクイズ大会なども行われ、趣向を凝らした演出で笑顔の絶えない温かいひと時となりました。



- ① 参加者全員による合唱
- ② 留学生によるダンス
- ③ 卒業する留学生
- ④ 小野会長のご挨拶
- ⑤ 留学生の友人代表のご挨拶



# 機械電気工学科

## 就職・進学状況

自分のやりたい仕事に就くために



5年担任 機械電気工学科  
教授 藤田 重隆

平成25年度の機械電気工学科5年生39人の内、就職希望学生は22人で、進学希望学生は17人でした。なお、機械電気工学科への求人社数は465社でした。

まず、学生諸君が就職を希望する会社の決定は、早めに行うことが重要です。就職希望先を決める際には、クラス担任は学生自身がどのような仕事をしたいかということを中心として話を聞き、学生の適性も考慮して希望する会社を決定した時期は、ほとんどの学生が4年次の平成24年の11月から12月でした。

そこから、担任が各会社の採用担当者と連絡を取り、工場見学が可能な会社に対して2月もしくは3月に見学日を設定し、学生に見学に行かせました。就職希望の学生諸君は、希望している会社であっても自分がどのような仕事をするのかについての知識は、必ずしも十分ではありません。それゆえ見学時には、会社の担当者から会社および仕事内容についての説明を受けるとともに、高専の先輩社員（高専卒であればどの高専でもOK）と話をし、自分がその会社で将来どのような仕事につき、どのような処遇を受けるのかについて、その中で認識できるようにしました。同時に、会社側からの学生の印象についても見てもらいました。その上で、その会社の就職試験を受けるかどうかを決定しました。そのような工場見学をすることにより、学生と会社のミスマッチを最小限にすることができます。

その結果、機械電気工学科では就職試験の1回目で合格した学生は18人、2回目が2人、3回目が2人で、就職希望学生の22人中21人の学生が5月末までに就職先が決まり、もう1人も6月には決定しました。このことから、学生が早い時期に就職試験を受ける会社を選定し、工場見学を通じて会社を知り、また会社側にも受験する学生について早めに認識してもらうことが重要ということが分かります。

一方、進学希望学生諸君には4年生の4月中に進学かどうかの意思表示をしてもらいました。その中で、専攻科に進学希望の学生には、卒業研究担当の教員と話を詰めるように連絡しました。他大学へ進学希望の学生には、自分で希望する大学の編入学に関する数年分の書類（入試問題等）を、できるだけ早く収集するように伝えました。さらに、収集した試験問題等の傾向を読み取り、さらに対策を立てて、受験まで1年余りの期間のタイムスケジュールを立てるように伝えました。

その結果、必ずしも第1希望の大学に合格できなかった学生もいますが、17人中16人の学生が8月までに進学先を決定することができました。このことから、早期に対策を立てることが重要であるということが分かります。

以上、平成25年度の機械電気工学科5年生の就職と進学についての内容を述べさせていただきました。来年度の5年生の就職および進学の一助となれば幸いです。

**就職** 日本オイルシール、田辺三菱製薬工場、中国電力（2名）、富士高圧（2名）、西部石油、テクモ、東ソー（2名）、東ソーシリカ、日立交通テクノロジー、日立笠戸事業所、JXエンジニアリング、徳山積水、JR西日本、メタウォーター、TOTO、JX日鉱日石、武田薬品、協和発酵バイオ、カンセツ

**進学** 徳山高専専攻科（8名）、豊橋技術科学大学、東京大学工学部、山梨大学工学部、大阪大学基礎工学部、広島大学工学部、山口大学工学部、九州大学工学部、熊本大学工学部



## 就職・進学試験体験記

## ● 体験記①

## 就職活動を終え

機械電気工学科5年 岩崎 賢司



あなたはいつから自分の働いている姿を頭の中で思い描くことができるようになりましたか？自分は高専2年生のときのインターンシップを体験してから自分の働いている姿を思い描けるようになりました。思い描いているうちに、

自分は何を目標に働くのか？ 自分のしたい職種は何なのか？ 今まで学んできたことを活かせる職種は何なのか？ などを考えるようになり、その答えとして設備管理という職種を選択しました。ここにたどり着くまでには長い時間がかかり、友人や先輩、先生方、そしてインターンシップ先のOBの方々のアドバイスがとても役に立ちました。

本格的な就職活動は4年生になってから始めました。まずは前年度の求人票を元に、自分の希望する職種と一致する企業をいくつかピックアップし、その中から自分に合いそうな社風の企業を調べ、選定しました。夏休みには志望する企業にインターンシップにいき、職場の雰囲気を見定めつつ、自分をア

ピールしました。後期からはSPIの勉強を始め、研究室の先輩に体験談やアドバイスを頂きつつ、履歴書の作成に取り掛かりました。志望動機はスラスラ筆が進みましたが、自己アピールする箇所は苦労しました。ここではSPIテストの結果を元に自己分析をして、高専生活で頑張ってきたことを中心に埋めていきました。ここで書くことは、いろいろな話を書くのではなく、ストーリーを作って書くことと書きやすいし、面接でもスムーズに自己アピールすることができました。

面接試験は最も気合いをいれました。春休みに入ってから面接練習を始め、先生や友達に何度も何度も練習につきあってもらい、口が勝手に動くようになるまで繰り返しました。履歴書を作成した時の自己分析がとても重要で、それを頭に入れていれば自信を持って試験に臨むことができました。

高専は就職先が豊富で選択範囲が広く、自分にあった職種を探しやすいと思います。これから就活を考えている皆さん、最後まで諦めずに強い意志をもって就活に励んでください。

東ソー株式会社

## ● 体験記②

## Success is a journey

機械電気工学科5年 茂山 丈太郎



私は本来大学に進学するつもりで高専に入学しましたが、本格的な受験勉強を始めたのは4年生の頃です。低学年の頃は、早期から学ぶことのできる専門科目の知識を習得していきながら英語学習にも励み、工学というひとつの学問の中でも視野を世界に向けていました。

日々たくさんの専門知識を学んでいく中で、海外という刺激的な環境で好きな分野の研究や仕事を満足のいくまでしたい、そう考えるようになった私は世界トップレベルの大学で自らの能力をさらに伸ばしたいと考え、2年生の終わりごろに東大の受験を決意しました。

4年生になるまでは英語力を徹底的に伸ばしました。個人的に、英語は“勉強するもの”ではなく、“世界的に認められた会話ツール”である、と信じていたので、とにかく楽しく学ぶことを心がけました。インターネットで様々なジャンルの英語の番組を見たり、同好会活動で英会話やスピーチコンテストに出場するなどして体得的に英語を学びました。英語を楽しく学ぶことで、本来ならそこで生じてしまう分の

苦勞を数学や物理の苦勞に回せたことは、自分に有利に働いたと思います。授業範囲外の単元が多く出題される東大の受験勉強では、毎日が未踏の地の連続です。そこで私を救ったのが先生方・先輩方の豊富な知識でした。問題を解決するために必要なアプローチを他の誰よりも多く蓄えることが重要です。

東大の二次試験で行われた面接は、英語による質疑応答という前代未聞の形式でした。卒業研究や大学で希望する研究についてなど、キーとなる質問は全て英語によるものでした。自らの考えや視野を英語で伝えることができるか。今や大学が私たち学生に求めているものは想像をはるかに超えているのだと思います。そのようなときにこそ、目標は常に高く持つておくことが重要です。自分に足りないものを的確に捉え、戦略的に学ぶことが大事です。

就職、進学を控える皆さんにとって、高専で進路を決定することは一つの成功であると言えますが、それは皆さんの歩む旅路の一部に過ぎません。終わりのないその旅路の先に、“今の自分より良いと思える自分”を見据えてください。そうすれば自ずと視線が上がってゆくはずです。

東京大学

# 情報電子工学科

## 就職・進学状況

努力の継続と諦めない気持ち  
で最適な進路を実現  
しよう



5年担任 情報電子工学科  
教授 山田 健仁

平成25年度情報電子工学科の5年生は、就職希望者28名、進学希望者15名でした。また女子学生13名のうち11名が、男子学生30名のうち17名が就職希望でした。

本年度の求人数は、387社と大震災の影響がほぼ落ち着き、景気の回復も感じさせる状況でした。徳山高専に来校された企業も65社に及び、1月～3月は人事担当者との面談に忙しかったのですが、徳山高専を高く評価して頂いていることを有り難く感じました。

就職活動は4年次から始まり、企業研究やSPI試験対策などに早くから取り組んだ学生もいました。特に、夏休みには就職希望の学生の大部分は、校外実習（インターンシップ）に参加し、これらの活動により、就業に対する意識が高まったように思います。また、就職希望の学生には、12月頃までに第一志望の企業を決め、1月初旬に履歴書を書いて担任の添削を受けることを勧めました。この時点でしっかりと履歴書が書けた学生は、3分の1程度でした。残念ながら、高専で学んで来た事や経験を自己PRとして表現できない学生が多くいました。クラブ活動や学生会活動だけでなく、学生実験や創造演習など高専で経験したことは、自信を持って自己PRとして書くべきだと思います。逆にマニュアル通りに働けば良いアルバイトなどは、履歴書に書いても評価されません。

大部分の学生は、7月までに内々定を貰って就職活動を終えましたが、9月まで就職活動が長引いた学生もいました。筆記試験や一次面接が通過しても最終面接が通らないという状況でしたが、諦めることなく活動を続けた結果、大手企業に決まりました。また、別の学生は、第一志望の企業では、面接で緊張して会話ができず不採用になったのですが、異なる分野の企業に応募して、開き直って？面接に臨んだところ高評価を得ました。その結果、この学生は

第一志望企業以上の規模を持つ大企業への採用となりました。不採用の時には、挫折感で涙を流した学生もいましたが、指導者の私自身は、学生の能力には問題なく、少し面接慣れしていないだけ、その企業に縁がなく面接担当者と相性が悪かっただけと考えていました。学生にも気持ちを切り替え次の企業に臨むように助言しました。結果は思った通りで、前述の様に、諦めずに良い条件、自分に合った企業をしっかりと考えて採用試験に臨み、見事に採用を勝ち取ることができました。徳山高専での、講義、実験、実習、クラブ活動、学生会活動など日々の経験、努力を大切に生かし、諦めない気持ちで就職に臨めば、必ずよい結果が得られます。今回の就職指導の経験で、この思いを一層強くしました。これから就職活動する人は、徳山高専で学ぶあらゆることを生かして、自分自身を信じて活動してください。必ずよい結果が得られます。

進学希望者では、7名が本校専攻科に進学することになりました。専攻科の厳しさは、先輩達から聞いていたと思いますが、長期インターンシップや就職、大学院への進学が好調なことから、高専での継続した勉学を選んだようです。

また、国立大学に7名が、専門学校に1名が進学しました。大学、専門学校という高専と異なった環境で、一層の知識の獲得、技術力の向上を目指して、各人に相応しい学校を選択したように思います。特に難関校に合格した学生は、高専での勉学を基礎から応用までしっかりと身につけ、それを元に早くから進学を目指した勉強にも取り組んでいたようです。単純に編入試の受験勉強を一生懸命やっただけではなく、高専で学んだ事を土台に出来ている事は、進学先で大きく生きてくると思います。

**就職** イガワテック、富士通九州システム・サービス、関西電力、マツダE&T、富士通システムズ・ウエスト、テルモ山口、KDDIエンジニアリング、中国電力（2名）、サイタスマネジメント、ハイマックス、東ソー、富士高圧フレキシブルホース、三菱電機神戸製作所、倉敷紡績、ブリヂストンプラントエンジニアリング、デルタ工業、大阪ガス、矢崎総業、ニプロ、ディスコ、NTTファシリティーズ、ワンオールシステム、東ソー情報システム、リコー、昭和電工川崎事業所、NHKアイテック、協和エクシオ

**進学** 徳山高専専攻科（7名）、広島大学理学部、豊橋技術科学大学（2名）、大阪大学基礎工学部、熊本大学工学部、神戸大学工学部、琉球大学法文学部、静岡産業技術専門学校

## 就職・進学試験体験記

## ● 体験記③

## 就職活動体験記

情報電子工学科5年 神徳 香璃



私が就職について真剣に考え始めたのは4年生の10月でした。県内就職を希望していましたが、そもそも自分がやりたいことが分からず、なかなか受ける企業が決まりませんでした。前年度の求人票を見たり、両親と相談したりしていたところ、テルモ山口のことを知りました。担任の先生に話を聞いて、生産予定のカテーテルに興味を持ったこと、同じように働くならより人のためになる仕事がしたいと思ったことから、テルモ山口を受けることに決めました。

その後、11月から始まったキャリア教育支援室による「進路支援セミナー」に参加して学んだことをもとに、履歴書の作成や企業研究などを進めていきました。また、私の場合は3月から採用試験が始まったので、放課後や春休みに友達と集まって面接練習をしたり、先生方にも練習をお願いしたりと、とにかく出来るだけ面接の練習をして、試験に臨み、無事内定を頂く事が出来ました。

私は、自身の経験を振り返り、面接練習は飽きるくらいやってちょうどいいと思いました。練習を繰り返す中で、言いたいことがより明確になり、より良い言い方が見つかることもあります。先生方や友人の助言が実際の面接で役立つことも数多くありました。また、準備をしっかりとすることは自信に繋がります。他の受験者は大学生をはじめ大学院生など年上ばかりで、面接官もかなりつつこんだ質問をしてきました。特に私の場合は、急に「二日後に面接」なんてこともありました。しっかりと準備をしていれば、不測の事態にもある程度落ち着いて対応できると思います。

これから就職活動をする皆さん、もしもやりたいことが見つからない場合は、自分を見つめ直し、就職する企業に自分が求めるものについて整理した後、求人票などを参考に企業や仕事のことについて調べてみてください。色々なことを知っていくうちにきっかけが生まれるかもしれません。

テルモ山口

## ● 体験記④

## 高専生から大学生へ

情報電子工学科5年 川部 純



4年生になった頃、進路選択を迫られました。多くの方が就職活動に動き出す中、私は迷わず進学を希望しました。そもそも私が普通高校ではなく高専を選んだのは、いち早く専門知識を付けたかったからです。学年が上がるにつれて専門科目が多くなる中、大学に編入してより深い知識を身に付けたい、そう思うようになったのです。

大学への編入は簡単ではありません。特に総合大学は基本的に推薦による編入を認めておらず、学力試験を受けなければなりません。当初、私は神戸大学を第一志望にしていました。関西方面で将来的に仕事をしたかったことや、研究が充実していることなどが理由でした。大阪大学はというと編入試験のレベルが高すぎて、受験するだけ無駄だろうと端から諦めていました。

冬休みから春にかけてひたすら物理、英語、数学を勉強しました。図書館巡りをしたり、ファス

トフード店に居座ったりしながら勉強尽くしの日々を送りました。ある時、阪大の過去問を数年分眺めていると、最初は凄く難しそうに見えた問題も解けるだけの力が自分についていることに気付きました。もともと阪大に行きたいと心のどこかで思っていたこともあり、これを機に受験を決意しました。これまで神戸受験のための勉強をしていた私にとって、わずか1ヶ月前の志望変更は非常に厳しいものでした。しかし先生方や両親、友人に支えられ、何とか受験に耐えうるレベルまで自分を持っていくことができました。

そして学力試験・面接を乗り越え、無事に合格することができました。最初から諦めずに阪大を第一志望にしておけば、もう少し楽に受験できていたと思います。合格できる大学ではなく1ランク上の大学を目指して勉強することが大切です。

殴り書きになってしまいましたが、最後に一言後輩のみなさんに添えておこうと思います。

「合否を決めるのは大学ではなく自分です」

大阪大学

# 後輩に恩送りを

## 就職・進学状況 進路を決めるという強い意識 が必要

5年担任 土木建築工学科  
准教授 島袋 淳

本年度の土木建築工学科の進路状況は就職24名（公務員7名、民間17名）、進学12名（大学進学6名、専攻科6名）となっております。

私は2年前も進路指導の担当をしましたので、2年前の進路状況（民間就職状況）と比較しながら述べたいと思います。

まず、2年前と大きく変わったことは求人が大幅に増え、加えて高専生の評価が一段と高くなったことです。2年前の求人企業は約140社でしたが、今年度は約200社と大幅に増えました。ほとんどの求人企業は2年前と変わらないのですが2年前には求人を頂いていない企業から求人を頂けたことが求人企業の増加につながったと考えられます。このなかでも従来、高専卒ではほとんど求人が頂けず、大学学部卒や院卒を主に採用してきた建設コンサルタント系の会社からの求人があり、建設の現場だけでなくコンサルタントにおいても高専の評価が高くなってきていると感じました。また本学科のこれまでの就職先の多くは建設会社が主だったのですが、今年度は機械系やプラント系の求人が増えたことでその分野に就職する学生も増えております。一見、別分野に進むため、就職希望の学生も不安になっておりましたが、説明会や人事の方との話で土木建築専攻からの入社でも会社がしっかり教育することや配属先として維持管理や設備など土木建築の知識が必要などところに配属しているとの説明が聞けましたので、学生も安心しております。ここにおいても会社としては機械系ではない別専攻からの採用ということで、高専生のポテンシャルを非常に買ってくれていると感じました。

ここで、高専の就職試験の特徴としては学校推薦と自由応募の2通りがあり、試験の時期も自由応募は1月ぐらいから、学校推薦は3月以降と時期も異なっています。また自由応募の会社はスーパーゼネコンや大手建築設計事務所など土木建築系では大きな企業が自由応募方式での採用活動を行っております。今年度は女子学生3名が自由応募で就職活動を

行い、情報系企業、スーパーゼネコン、協同組合から内定を頂きました。自由応募は大学生と一緒に受験するので学校推薦と比べて内定を頂くのが難しいのですが、メリットとしては複数の企業を受験できること、男女差があまりないことや試験時期が早いいため内定をもらえなくてもその後に学校推薦の企業を受験することができること等が挙げられます。現に情報系企業から内定を頂いた1名は情報系の会社に入るということを早くから見据え、色々な情報系の会社説明会に参加し、複数の会社を受験し、内定を得ることができました。またこの3名に共通することは早くから自分がやりたいことを見つけ、会社説明会に積極的に参加するなど自ら積極的に行動したことだと思います。求人は増えてはいるのですが、女子学生の就職に関しては依然として厳しく、この3名が内定を得たように女子学生はこの自由応募をうまく活用した就職活動を行うのも一つの手だと思います。この3名以外の内定は全て学校推薦でほとんどの学生は第一希望の企業から内定を頂いたので自由応募に比べて、やはり学校推薦は若干有利かなと感じています。ただし、2年前も今年度もインフラ系の会社から学校推薦で内定を得られなかったため、インフラ系の会社の学校推薦は他の企業よりも難しいと考えております。

今年度の進路状況について、民間企業への就職を2年前と比較しながら述べましたが、言えることは高専生の評価が非常に高いということです。これはやはりこれまで卒業した先輩方が社会で一生懸命頑張りと、会社から高い評価を得たためだと思います。これから就職する学生はこの恩恵に甘えず、高専生の評価を高めて頂いた先輩方に感謝しながら就職する必要があると思います。またこういった恩恵を先輩方に返すことはなかなか難しいことかと思っておりますので、今後の後輩の就職活動がスムーズに行えるように会社で高専生の評価が更に高まるように頑張ってもらえたらと思います。

ぜひ「pay it forward」の気持ちを！

**就職** 出光興産、関西熱化学、JXエンジニアリング、東京ガス、JR東海、メタウォーター、NIPPO、富士通山口情報、大成建設、国際企業、洋林建設、鴻池組、大林組、ライト工業、JA周南、TOTOエンジニアリング、しらい、山口県、周南市（2名）、下関市、下松市、防府市、光市

**進学** 徳山高専専攻科（6名）、熊本大（3名）、山口大、京都工芸繊維大、千葉大

## 就職・進学試験体験記

## ● 体験記⑤

## 就職活動体験記

土木建築工学科5年 野間 彩花

私が就職活動を始めたのは、12月。就職活動を始めるといっても、何をすればいいのか分からない状態でした。就職するからには、有名な会社に入りたかったので、大成建設を選びました。説明会には大勢の学生が来ており、圧倒されました。ほぼみんな大学生だし、質問もバンバンするし、私はただ話を聞くことしかできませんでした。これではいけないと思い、真面目に企業研究をしました。そして臨んだリクルーター面談。「まだ会社の良さが他にあるはずだからもっと研究してね」と言われてしまいました。まさかの出来事に驚きながらも、また1から企業研究をしました。それから、筆記試験があり、1次面接がありました。面接は、我ながらよくできたと思いました。そして、最終面接。わざわざ、東京まで出てきて落ちるなんて絶対嫌だったので、とにかく自分の言いたいことをまとめて、しっかりと準備して臨みました。私は、特に部活を頑張っていたわけでもないの言うことがなかったのですが、持ち前の粘り強さを売りに出すことにしました。面接官は3人。みんな優しそうなお人ばかりでした。なの

に、やったー！ 最終だー！ と変に気持ちが高ぶってしまい、言いたいことを全部忘れてしまいました。沈黙が続き、笑ってごまかすのも無理な感じになってきて、どうしようと思っていたら、面接官の方がうまく誘導してくれました。優しすぎて怖いくらいでした。面接が終わり、確実に落ちたなと思っていました。受かったときはすごく嬉しかったです。

これから、就活をする皆さんは、まず、自分を知ることから始めるといいと思います。そのうえで、しっかりと企業研究をしてみてください。本当に入りたいと思えば、企業の方もしっかりと見ていてくれます。マイナスの方向に考えず、プラス思考で就活を乗り切ってほしいと思います。

大成建設

## ● 体験記⑥

## 大学編入試験を終えて

土木建築工学科5年 山中 隆寛



私が大学編入を考え始めたのは高専3年生の頃でした。高専入学当初は就職することを考えていましたが、高専で建築について学ぶにつれ、もっともっと知識を深めたいと思い、大学へ編入することを決意しました。編入先の大学を決めるにあたっては、どこの大学に行きたいのかではなく、どこの大学のどの研究室に行きたいのかを考えて志望校を決定しました。志望校を決定したのち、過去問を取り寄せて編入試験に向けて勉強をしました。教科によっては高専では学んでいない単元もあったため、まずは独学で基礎的なことを学び、そのあと過去問を解いては先生のもとへ足を運び、解説していただくことを繰り返しました。

編入試験は定期試験とは違い、数ヵ月から約1年にわたる長期戦であり、コツコツと勉強を積み重ねていくことが大切です。それを実行することはとても大変でした。何度もくじけそうになりま

したが、同じ志をもった友達と共に最後まで頑張りました。

今回の編入試験を通して、志望校に合格することはもちろん大事ですが、それまでの過程も決して無駄なものではなく、自分自身の成長の糧になったと感じています。また、これまで自分がどんなことを学んで、どの程度身につけていたのか、今現在の自分を知ることでもできました。

高専の5年間は長いようで瞬く間に時が経ちます。毎日が充実した日となるように色々なことを学び、経験し、そして夢や目標をもってその実現に向けて努力することは大切だと感じています。これからの大学生活も充実した毎日となるように、様々なものに興味、関心をもち、たくさんのことを吸収していきたいと思います。

最後に、編入試験に関してご指導くださった先生方、応援してくださった皆様に心より御礼申し上げます。

熊本大学（工学部建築学科）

# 機械制御工学専攻

## 就職・進学状況 目標を定め日々鍛錬を



機械制御工学専攻幹事  
機械電気工学科  
准教授 鈴木 厚行

本年度の機械制御工学専攻2年生は12名で8名が就職予定、4名が進学予定です。ここ5年間では合計42名の学生の内、就職に決まった学生が26名、進学に決まった学生が16名です。本年度の就職・進学先は文末に記載の通りです。

山口県および近隣の県に事業所等がある企業への就職が比較的多いと思います。自由応募よりも推薦応募の学生の方が多いです。しかし、推薦があるからといって必ずしも内定が得られるわけではありません。実力があるのに内定が得られないケースも当然あると思います。今後就職活動を迎える学生の皆

さんは、就職活動時に自分自身を一杯アピールできるように、日々鍛錬してほしいと思います。

本年度、進学が決まった学生の進学先はすべて九州にある国立大学の大学院でした。例年九州にある大学院に進学する学生は多いですが、ここ5年間では他に、岡山大・東京医科歯科大・徳島大・長岡技科大などの大学院にも進学しています。大学院進学の場合、希望する研究室がどのような研究をしているかよく調査することが大事です。専攻科では長期のインターンシップを行っていますが、本年度はインターンシップ先の大学院に進学する学生もいます。

就職・進学いずれにしても早めに目標を定めて行動することが大事になると思います。また、社会で活躍するには知識・技能を身に付けるだけでなく、コミュニケーション能力を高めることも必須です。自分を高めることを意識して、積極的にさまざまな経験を積んでいくと良いと思います。

**就職** NOK、コベルコ建機、新日鐵住金ステンレス、新潟トランス、日立交通テクノロジー、日立製作所、日立三菱水力、ヤマハサウンドシステム

**進学** 九州工業大学大学院、九州大学大学院（2名）、熊本大学大学院

## 就職・進学試験体験記

### ● 体験記⑦

### 恵まれた環境に怠惰にならない！



私はコベルコ建機株式会社に就職が決まりました。世界中の荒野で活躍する頑丈で自然の温もりある青緑のショベルカーに乗り、私の人生はゆっくり、そしてパワフルに走り出しました。

就職活動はまさにオフロードのように険しい道のりでした。私は当初から車両の開発設計職を志望していましたが、立地条件の制約も加わり一気に企業の候補が無くなりました。その中で選んだ企業も本校に求人がなく、自由応募をしいられ愕然としました。そこで悩みながらも自由応募を決断します。しかし、企業研究を掘り進めるうちに私に適さないと考え、また試験日時が遅いことから、多くの時間を費やしたのに受験を辞めます。他の大学生は、数十社と受験し内々定を勝ち取ります。一社受験するのに苦労した私は、大学生の大変さを思い知り、推薦の多い高専生がいかに優遇されているかを感じつつ路頭に迷いました。

自由応募でかなり遅れた私は、3月の終盤に学校

機械制御工学専攻2年 福本 哲己

推薦に切り替えます。私の条件に適應する企業を先生方に尋ね、多くの人に助けを求めて情報を集めました。時期もあり該当する企業は少なかったですが、先生の手厚い推薦で当社と出会えたわけです。すぐに手配して頂いた工場見学で現場の雰囲気を感じ、ようやく出会えた光景に運命を感じました。ここからは自由応募での経験が効いてか、不思議に物事が順調に進みました。

多くの制約下では、追い込まれて1人で物事を考えがちです。就職活動は必ず多くの人と考えを共有すべきです。企業との出会いは本当に偶然です。自由応募から急に学校推薦の話が来た私だからこそ伝えたいです。自由応募での徹底した準備が私を支えてくれたのも事実です。学校推薦が多くあるこの恵まれた環境に甘えず、多くの情報を得る努力をしてください。堅実な自己分析も行え、それが間違いなく自信になります。まずは身近な先生と正直な思いを共有してみてください。

コベルコ建機株式会社

## 情報電子工学専攻

### 就職・進学状況 早めの準備が肝要です



情報電子工学専攻幹事  
情報電子工学科  
教授 重村 哲至

今年度の情報電子工学専攻2年生は全員で9名です。その内4名が就職予定、5名が進学予定です。

就職希望者の中では3名が自由応募で選考を受け、学校推薦で選考を受けたのは1名だけでした。地域別では首都圏と中京圏の企業です。自由応募で選考を受ける場合、大学生と同様な扱いを受けるので就職活動が長期化する傾向があります。一方で学校推薦の場合は選択肢が若干限られますが短期間で選考が終わることが多く学業への影響を最小限にできます。しかし、会社によって推薦・自由応募についての考え方は様々です。両方で選考の過程にほと

んど差がない場合や、推薦制度がない場合もあります。募集要項等をよく読み、自分にとって適した選考の受け方を決めるようにしましょう。

進学希望者の中では4名が国立大学の大学院に進学します。4名とも専攻科1年生の長期インターンシップでお世話になった大学への進学です。インターンシップで研究室の様子を見て進学の気持ちを強くしたことが多いようです。しかし、大学でのインターンシップが進学の条件ではありません。企業へインターンシップに行き見聞を広めてから進学するのも良いと思います。

専攻科2年生になると通常の単位取得の他に特別研究や学位取得準備にも忙しくなります。これらと並行しての選考・受験になります。就職と進学のどちらでも「1年次から計画的に特別研究を進めておく」ことも含めて早めの準備を心がけましょう。

**就職** 富士通システムズ・イースト、アイシン精機、日立情報制御ソリューションズ、ぐるなび

**進学** 名古屋大学大学院、筑波大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、九州大学大学院、公務員専門学校

## 就職・進学試験体験記

### ● 体験記⑧

### 私の進学活動体験記

情報電子工学専攻2年 西崎 優弥



私が大学院進学先を決定したきっかけは、専攻科1年時の奈良先端大でのインターンシップです。二ヶ月間という短い期間でしたが、研修先の先生や院生の方々の下での指導や議論を通して、私が今まで培ってきた研究に対する姿勢がどれほど甘いものであったかを痛感しました。そして、同時に、この環境が自分にとって学力的及び精神的にも成長させてくれるものであると強く感じたため、奈良先端大を進学先として志望しました。

インターンシップ終了後、院試に向けて勉強を始めましたが、他のいくつかの志望校に対しても並行して対策を行いました。どの大学院も「進学後にやりたい研究」に関する小論文が試験内容として与えられていたため、まず、志望先の研究室から発表された論文を収集、熟読し、自分であればこのようなテーマで研究がしたいという指針を決定しました。そして、実際に研究室訪問に伺い、先方の方々にやりたい研究の意向を伝え意見を頂

いたり、研究室の環境が自分に合っているかどうかの判断を行いました。

入学試験については、主に英語と数学、小論文、口頭試問で行われます。英語は、TOEICのスコアなどを参考にすることが多いため、妥協せず出来るだけ高いスコアを得る必要があると思います。数学は、過去問から出題傾向を推測するとともに高専本科で学んできた知識の総復習を行いました。小論文や口頭試問については、志望先の先輩方からアドバイスを頂いたり、高専の先生方に想定質問などを作成して頂くことで対策を立てました。

結果として志望校に合格することができましたが、振り返ると、物事に対する目的意識を明確にすることが重要だと感じました。つまり、なぜこの対策を立てているのか、なぜこの勉強を行っているのかなど、常に自分の行動に疑問を持ち、それに対し修正を重ねていくことで強固な自分の軸を形成することが合格へつながるのではないかと思います。

奈良先端科学技術大学院大学

# 環境建設工学専攻

## 就職・進学状況

買い手市場から売り手市場へ



環境建設工学専攻幹事  
土木建築工学科  
教授 橋本 堅一

12月1日から26年度採用予定の就職活動が解禁になりましたが、すでに、10社以上（12月20現在）が来校して、会社説明を終えています。私は昨年、一昨年と4、5年の担任をしていましたので、少々驚いています。特に20年以上採用を控えていた建設コンサルタントが5社あったのには、建設業界の大きなうねりを感じています。一昨年の就職活動では、推薦入社試験で簡単に不採用にされるような傾向があり、5、6社採用試験に落ちた学生がおり、「買い手市場」という言葉を使わざるを得ない状況にありました（高専だより66号参照）。しかし、今年度は準大手および中堅ゼネコンの採用が予定人数を大

きく下回っているようで、1年を通して求人のための電話に応じるというような事態になっています。これまで求人がなかったような大小建設コンサルタントの人事担当の方がわざわざ足を運ぶことも出てきています。これは公務員にも言えることで、思うように採用が出せず2次募集を行う市役所も出てきています。これは、東日本大震災の復興だけでなく、公共事業の見直しや文部科学省の学校耐震改修の積極的指導などが影響しているようです。

そういう状況下で今年度の環境建設工学専攻の進路は12名のうち、大学院進学希望はわずか2名、あとの10名は就職と例年の傾向とは大きく異なっていました。まだ1名の進学希望が進路を決めていませんが、2月にはどこかの大学院に決まるものと考えます。

**就職** 防府市、サイマックスビルマネジメント、山口県、労働基準監督官、みらい建設工業、洋林建設、NTTファシリティーズ中国（2名）、澤田建設、昭和コンクリート工業

**進学** 東京工業大学大学院

## 就職・進学試験体験記

### ● 体験記⑨

### 私の就職活動体験記

環境建設工学専攻2年 蒲生 諒



私は徳山高専に入学した時から、高専卒業後は専攻科へ行き、山口県庁に就職するという目標を漠然と決めていました。本科の時は、普通の授業を真面目に受け、よい成績を修められるように勉強していました。この積み重ねが、後々本格的に公務員試験の勉強を始めたときに役立ちました。

専攻科へ進学してからは、長期インターンシップで民間企業と公務員にインターンシップへ行きました。この時に、土木の様々な業務を経験でき、工事の計画から維持管理までのすべてに関わることのできる公務員に大きな魅力を感じ、公務員への志望を決意しました。

長期インターンシップが終わり、公務員試験の勉強を始めたのは専攻科1年の11月ごろです。

本科の時に真面目に授業を受けていたおかげで、専門教科の勉強は理解が早かったように思います。面接試験や小論文試験については、一次試験合格後、先生方や職員の方に心構えや秘訣を伺い、面接練習をしていただきました。そのおかげで、無事内定をいただくことができました。

就職活動のアドバイスとしては、まず目標をできる限り早めに決めることが重要です。公務員の試験勉強も試験が始まる半年以上前から勉強していたおかげで、受験した5つの公務員の筆記試験に合格することができました。また、日々の勉強や部活、研究などを一生懸命取り組むことも重要です。私は勉強と研究に力を入れていたおかげで、それを面接試験でアピールできました。早くから努力を始めることで、皆さんの就職活動もきつと良い結果に結びつくと思います。

山口県庁



# 卒業生だより

## 大学生活とロボカップ

機械電気工学科 第32期卒  
大阪大学大学院 工学研究科 修士2年  
広瀬 大

私は本科を卒業後、大阪大学工学部の機械系学科に編入学しました。その後、大阪大学大学院に進学し、現在修士2年です。就職活動は無事終了し来年からは京都の島津製作所で働く予定です。ここでは高専卒業後の大学生活と、その中でも特にロボカップ活動について報告させていただきます。

### 一大学生活

私の大学生活は、まずサークルに入ることから始まりました。私の大学では「サークルオリエンテーション」という行事が4月初旬にあり、新入生を対象に多くのサークルが勧誘活動を行います。私もその中に紛れ込んで雰囲気を楽しそうな合唱サークルに入りました。わざわざ高専から大学に入ったのに授業や研究ではなくサークルに時間を費やして良いのか…と最初は悩みましたが、その後4年間在籍し、学部をまたいで幅広く人と関わり、飲み仲間も作る事ができてとても満足しています。

肝心の授業の方は、学校や学部・学科によって異なるようですが私の編入した学部では時間割がスカスカで高専4年の頃の密なスケジュールに比べれば非常に楽でした（ちなみに私の所属する工学部ではなく基礎工学部では、単位認定が厳しく編入生は大変な様子でした…）。授業の内容自体の進みはとても速いですが、高専で基礎は勉強していたので、正規の大学生より理解が捗ったのではないかと思います。また、私は同じ立場の編入生とよく一緒に鍋でもしながら勉強していたので、不安は殆どありませんでした。

一方で研究については高専の時と毛色が異なり、研究室在籍中は終始苦勞しました。教育機関よりも研究機関としての色が強いように感じます。大学に来たことを後悔するほど思い通りにいかず苦しい思いをした時もありましたが、それもまた、高専時代に大した苦しみや挫折を味わわなかった自分には必要な経験だったのだと今では思っ



ロボカップの試合の様子

ています。

### 一ロボカップ

私は高専の時に毎年ロボコンに取り組んでいました。引き続きロボット競技に関わりたかったため、大学では毎年6月末に開催される「ロボカップ」というロボット国際大会にJoiTechというチームとして参加していました。

ロボカップは、サッカーを始めとした多くのロボット競技でできています。その中でも私たちが取り組んだ「ロボカップサッカー・ヒューマノイドリーグ・アダルトサイズ部門」では、身長130-160cmの人型ロボットがサッカーのPKのような競技を行います。その競技中は自律でロボットが動くことが求められるため、画像処理によりボール・ゴール・敵の認識を行い、その結果を使って移動方向やキックのタイミングなど行動決定する、ということを行うヒューマノイドロボット開発が求められます。

ロボットのハード（機械、電子回路）は既に出上がっているものを使用したため、私たちの作業は主にプログラム作成でした。画像処理や人工知能は高専の頃から興味があり、実践的な技術を大変楽しく勉強させてもらいました。

今年はオランダで世界大会が催されました。慣れない英語でのゲーム進行や、1週間にも渡る大会期間に疲労困憊でしたが、努力の甲斐あって私たちのチームは優勝することができました！

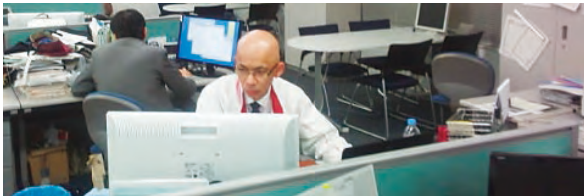
### 一おわりに

私は高専時代について、写真をあまり撮っていなかったことを若干悔やんでいます。高専時代のあらゆる活動は思い返せばとても良い思い出になるので、是非写真にして残しておくことをお勧めします！

# 卒業生だより

## チャレンジ精神と言葉の論理性

情報電子工学科 第8期卒  
富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)  
石松 研一



徳山高専を1986年3月に卒業し、大学進学よりも地元就職を選び、今の会社の前身である富士通九州通信システム(株)に入社して、28年目になろうとしています。28年の間には当然それなりの事件があり、人生の選択を後悔した時はありました。それでも徳山高専卒業という誇りみたいなものは常に持って仕事に人生に真摯に向き合ってきたつもりです。

ところで、みなさまは、どのメーカーのケータイをお使いですか？ 様々なメーカーの中で、私が開発に関わっている富士通Arrowsシリーズを使っているのを見ると、非常に嬉しいです。電池長持ち、音がキレイ等々、アピールポイントは山ほどあります。宣伝色が強くなるので、この投稿では詳細を割愛しますが、ぜひとも買い換えの際には、店頭で手にとってください。お使いするに値するはず。このために、私達は頑張っています。これらの開発を通じて私が常に感じていることは、会社の仲間は「あきらめが悪い」「技術に、そしてユーザに真摯だ」ということです。ケータイ業界は、ご存じのようにメーカー間の競争が激しく、新製品の商品企画の段階では、我々開発サイドから見ると、アグレッシブすぎる機能、非常に短い開発スケジュールになっています。このアグレッシブな開発計画をなんとか乗り切ってお客様に良いものを出そうとするチャレンジ精神を持つ仲間達と私は一緒に仕事をしています。このマインドこそが、きっと徳山高専において身につけるべきことなのではないかと、今では思っています。

どうしたら、このような「あきらめない」マインドは、身につくか？ これは、学業、部活、高

専祭等の学生生活の中で、ジャンルを問わず、何かに120%力を注いで、やりとげることだと思っています。

その過程における失敗体験と、やりとげた成功体験が自分の中で自信となって、その後、社会人になったら遭遇するであろう様々な困難に対して「あきらめない」ことにつながるはず。

(ここまで書いて未だ半分なので) もう一つ、在校生の方へメッセージです。もう40代後半にもなり、これまでは自分の思いを行動で示すことで充分でしたが、今は、行動だけではなく自分から言葉として発信していかなければいけない機会が非常に増えています。自分の思いを論理的に言葉で相手に伝えること、これは難しいです。相手(聞き手)も、状況に応じて様々であり、もちろん英語を使うケースもあります。そこで、在校生の方は、ぜひとも国語や英語等の一般教養クラスを、寝ずに、内職せずに、キチンと授業を受けていただくと共に、自分から言葉を発信する際には、相手にとって、論理的に伝えることを心がけてください。徳山高専の先生方は優しく、かつ先生という職業柄、生徒の言うことを理解しようと思って聞いてくださっているため、論理性を意識せずとも問題にはならず、指摘されることも少ないと思います。しかし、学生時代から論理性を心がけることによって、きっと社会人になって、それが生きてくると思います。特に英語は、業界がグローバル化しているためスキルの一つとして必須であり、かつ、英語を使う場合は、どうしてもシンプルな表現になるため、自身の言葉の論理性を高める手段としても有効です。ぜひとも学生時代から真剣に取り組んでください。

それでは、限りある学生生活を日々大切にしながら様々なことにチャレンジしてください。どこかでご一緒することを楽しみにしています。



当社の技術が使われている  
らくらくスマートフォン プレミアム F-09E

# 卒業生だより

## 私の場合…

土木建築工学科 第11期卒  
山口県立徳山商工高等学校  
川崎 主税

徳山高専のみなさん、元気にお過ごしでしょうか。私が、高専を卒業して早いもので25年が経ちました。現在、私は徳山商工高等学校の教員をしています。山口県に採用され17年が経ちました。

「あれ？ 卒業して25年。17年？・・・」

今の仕事に就くまで、紆余曲折いろいろなことがありました。仕事における転機が4度訪れました。

### < 転機1 > 会社時代

高専を卒業後、東亜建設工業株式会社に就職し兵庫県で社会人1年目をスタートしました。現場監督として日々現場を走り回っていました。就職当時はバブルの絶頂期で建設関係の仕事も切れることなく仕事に追われる日々で、休日もなく遅くまで残業の日々を送っていました。当時の楽しみは、食べることでした。消波ケーソンの建設・海上設置工事、下水道新設工事、工業用地造成工事などの仕事を経験しました。

### < 転機2 > 村役場時代

その後、家庭の事情で会社を退職し山口県に帰り、村役場の土木職員になりました。工事を施工する立場から、道路の計画や発注、施設を管理する立場に変わりました。村役場は、町役場や市役所の規模と比べ財政指数も低く、予算が少ないため、林道開設時の測量や路線の設計も自分たちがしていました。高専での実習や夏休みの課題設計で経験していたこともあり、抵抗なく職務を遂行することができました。村役場の職員は思っていた以上に何でも自分たちの手でしないとイケませんが民間での経験も役立ち、手際よくこなすことが出来ました。また仕事以外では、若者活動サークルに入り「村おこし」について精力的に活動しました。祭や盆踊りといったイベントの企画運営や地域間の交流活動をしました。

### < 転機3 > 大学時代

それから、日々の生活の中で、防災に関係の深い土質力学についても一度勉強がしたくなりま

した。高専の橋本先生に相談したところ山口大学工学部社会建設工学科の社会人卒受験を勧められチャレンジしました。そして2児の父でありながら、家族と離れ現役大学生として、学ぶチャンスを受けました。大学では、専門以外の授業について行くのが大変でした。ブランクはもちろんですが高専時代の不勉強のつけが大きな要因でした。(笑) 授業以外の空いた時間は教授にお願いして、3年生から研究室に入れて頂き、地すべりについてそのメカニズムや解析について研究しました。学ぶことを求め続けた大学2年間は瞬間に過ぎ、充実したものとなりました。言葉では言い尽くせないほど努力し、苦勞した。人生の中でこれ程頑張ったことはないと誇れるくらいです。いろいろな人の支えがあって、充実した学生生活を送ることが出来ました。

### < 転機4 > 高校教諭時代

卒業後、しばらく今後の目標を見つけれないまま過ごしていた私は、教員採用試験を勧められました。乗り気で受験した訳ではありませんでしたが、結果は見事合格。岩国工業高校で新規採用として教員生活をスタートすることになりました。新設されたばかりの都市工学科で一から学科を育てていくことは苦勞もたくさんありましたが毎日が刺激的で充実した日々を送ることが出来ました。徳山高専にも9人の編入生を送ることも出来ました。教員をしていて自分の学生時代を振り返ると、先生方に唯々感謝するばかりです。やんちゃであった私をいろいろな面で「良い加減」に支えて、育てて頂きました。高専での5年間が今の私を支えています。

在校生のみなさん徳山高専は素晴らしい学校です。卒業してジワジワそのすばらしさを感じるでしょう。頑張れ！後輩！



読売新聞 2013年6月25日朝刊

## 徳山高専同窓会「高城会」から

平成25年度より同窓会長が交代しています。新会長の川村さんには高城会のHPでは既にご挨拶いただいているところですが改めてご寄稿いただきました。また、クラス会の様子について、ご多忙中、メッセージを寄せていただいた卒業生のみなさんに心よりお礼申し上げます。

担当：目山 直樹（CA 6期、徳山高専土木建築工学科）  
田村 光子（IE 5期、徳山高専学生課）

### 会長挨拶

#### ■ 会長就任にあたって

川村 宗弘  
(IE 1期、  
山口県産業技術センター)



平成25年4月から、高城会会長を拝命いたしました。就任直後に入学式があり、中学校を卒業したときの自分の姿もあんなに幼かっただろうかと、思ってみたりしました。考えてみればすでに自分の子供も数年前に成人式を終え、社会人として働いており、自分の子供の中学校卒業のイメージすらほとんど記憶がないのです。

しかし、なんと言ってもうれしかったのは、高専ロボコンの初めての国技館での応援と、全国制覇です。自分が学生の頃は、ロボコンは影も形もなく、ただ大きいだけのコンピュータを使いこなすのが精一杯でした。その頃の性能以上のコンピュータがチップ上に搭載され、2足歩行までするロボットを作ることができるなどは、だれが想像できたでしょうか。これからはものづくりを創造・牽引できる高専卒業生の役割はますます重要になります。

さて、私も高専を卒業して35年、山口に戻って

30年になります。徳山高専も4,000名を超える卒業生を輩出し、いろいろな職場で卒業生が活躍されておられると聞きます。私が所属する県庁高城会もCA卒業生を中心として毎年1名以上増え、現在では70名を超える大所帯となりました。年に一度の総会では先輩後輩の分け隔てなく、盛り上がっています。また、社会人になって始めたテニスは少しも上達しませんが、徳山高専テニス部の活躍は非常にうれしく感じています。せめて自分の所属していた剣道部がもう少しがんばって欲しいです。今は防具を着けることはないのですが、居合を数年前から始めました。仕事では、山口県の中小企業を中心に技術支援を行う山口県産業技術センター（宇部市）に所属し、企業との共同研究のお手伝いや技術相談などに対応しています。自ら研究開発を行うことはなくなりましたが、画像処理を応用した材料評価技術による成果で学位をいただくことが出来ました。

学生時代は高専の教室や研究室の中で一緒に生活していたみんなも、社会に出ればいろいろなステップを踏んで、様々な生活を過ごしていると思います。時には学生時代を思い出して、皆さんで集まりましょう。そのための仕組み作りや学校の発展のため少しでもお役に立てたら幸いです。与えられた任期(いつまでかは聞いていませんが) 精一杯がんばります。会員の皆様のご支援ご協力を宜しくお願いします。

### クラス会の様子を再現

CA 6期  
クラス会

CA6期同窓会理事 野村憲一

2013年8月14日に、10年ぶりのクラス会を周南市内のホテルグラマシーで行った。

われわれのクラスは卒業以来、10年おきにクラス会を開いているので、30歳、40歳、50歳と節目の年齢でお互いに顔を合わせることになる。

50歳ともなると、みんなそれぞれに変化がある。髪の毛が白くなったやつ。なくなったやつ。顔が険しくなったやつ。丸くなったやつ。それぞれである。

写真を見てもらうと、なんとなくわかるではないか。

3年生の時のクラス写真を背景にして、それぞれに近況を語ってもらった。みんな苦勞してやがるな。俺も苦勞したけどな、と思いながら杯が進んだ。

今回は、われわれが在学中に測量実習や材料実験でお世話になった先生方に参加していただいた。

風貌は、先生方より勇ましくなったやつがいるけれど、今でもアニキのように接してくださった先生方のことを、みな慕っていることが分かった。

測量実習の時間に、「実は体育の先生になりたい」と漏らしたやつや、「高専をやめて大学受験する」とかいったやつ。たぶん、今の学生たちも同じような悩みを抱えているのかと思う。いまでも恩師たちが学生たちの相談相手であり、良き指導者であることを誇りに感じるひと時であった。



### IE 5期 クラス会

IE 5期 藤井 智

私が入学し、やっと全学年が揃い高専生活が始まりました。今では当たり前に使っているPCも当時やっと発売されたばかりで、初めて聞くIT系の言葉に戸惑いつつも色々なことを勉強しました。

入社して感じたことは徳山高専で学んだ技術レベルの高さです。学校の勉強は役に立たないと思われる方も少なからずおられるでしょう。ただ、私が配属された部署においては、その技術を大いに発揮することができました。まさに即戦力になる技術者集団だと自信を持ってください。

ただ心配なのは、皆さんのコミュニケーション能力です。技術ばかりが先行して人間関係をおろそかにするようでは、社会人としては失格です。会社はチームで仕事をするもので、お互いの信頼や協調性が一番大切です。リーダーとしてチームを引っ張る

人は間違いなくコミュニケーション能力が高く、取引先にも大きな信頼を受けています。コミュニケーション能力は取引先、上司、先輩に言われたことを「はい、わかりました。」と聞けというわけではありません。自分の意思、意見をきちんと相手に伝え、お互いに納得し協力して仕事を完遂することです。また、自分の部署以外の方との調整もありますから、コミュニケーションの大事さがお分かり頂けないでしょうか。

みなさんも技術面はもちろんのこと、コミュニケーション能力も一緒に高めて社会に羽ばたいて頂きたいと願います。

### IE 5期 クラス会

IE 5期 石田政美

徳山高専卒業後、早30数年が過ぎました。

4～5年前に、とあることがきっかけで、関東近郊に在住している十数名のクラスメートが、年に3～4回、関東会と称して集まっています。この関東会は、幹事を持ち回りして毎回色々な趣向で行っています。一昨年には、母校のロボコン全国大会にも応援に行きました。と言っても、集まってお酒を呑んでいるだけと言う話もありますが(笑)。

そんな関東会での話題は、もっぱら高専時代の思い出が多く、毎回「そんなことあったっけ?」と、新たな発見もあります。青春時代の貴重な5年間を共に過ごした友達(高専の友達だから“専友”)。腹を割って話せ、同年代を生きているから共感できる部分も多くあり、とても有意義な時間を過ごしています。そんな関東会は今後も継続していきたいと思います。また、関東会のメンバーだけでなく、他のクラスメートとも長く付き合っていきたいと思っています。

皆さん、“専友”は大切な財産です。大事にしてください。



1年担任：守川先生(下段中央右)、4、5年担任：佐川先生(下段中央左)

# 新任者紹介



一般科目 准教授

あさの まさなり  
浅野 真誠

## ●ご出身はどちらですか？

東京生まれの東京育ちです。

## ●本校にこられる前はどちらに？

東京理科大学で助教と研究員、  
また、他大学で非常勤講師をしておりました。

## ●徳山高専の印象は？

いままでは大学生を相手に講義をしてきたので、はじめて高専の学生を見たときは「若い！」  
と思いました。

校舎から見る瀬戸内海の景色は美しい。

## ●ご趣味はなんですか？

散歩・サイクリング、そしておいしいものを  
食べることです。

## ●今後の抱負をお聞かせください。

数学の教員ですので、学生に数学の楽しさ、  
大切さを伝えたいです。教育・研究、高専特有  
の忙しさ、すべてひっくるめて楽しみたいと思  
います。



一般科目 助教

やまもと たくお  
山本 拓生

## ●ご出身はどちらですか？

鳥取県です。小学生のとき広島に移り、中学  
高校からは山口県に住んでいました。

## ●本校にこられる前はどちらに？

大学院に通いながら熊本高専で3年と少し非  
常勤講師をしていました。

## ●徳山高専の印象は？

明るく素直な学生さんが多いという印象を受  
けました。能力に関しても、まだまだ伸び代が  
あると感じます。

また、学校のロケーションも素晴らしいです。  
夕暮れに坂を下るときの黄金色に染まった空と  
海とコスモスが好きです。

最近はずっと暗になってからしか帰れません  
が。

## ●ご趣味はなんですか？

始めて4年目のピアノです。

クラシックは弾きません。無理なので。

読書もします。純文学が好きです。

格好つけているわけではありません。

本当に好きなんです。

## ●今後の抱負をお聞かせください。

A. アインシュタイン曰く

「教えるということは、こちらが差し出した  
ものがつらい義務ではなく貴重な贈り物だと感  
じられるような事であるべきです。」

私も数学から「数学の計算方法以外」の非常  
に重要な能力が沢山獲得できることを、学生の  
皆さんに理解してもらえるように頑張ります。  
そのために、私自身も自分の研究に真正面から  
向き合って精進します。



一般科目 助教

うの ただし  
宇野 直士

●ご出身はどちらですか？

山口県長門市油谷です。

●本校にこられる前はどちらに？

佐賀県におりました。NPO法人の職員として、県内の中高齢者の方々を対象とした健康増進事業に従事しておりました。

●徳山高専の印象は？

爽やかな挨拶のできる学生が多い印象をもっております。一教員として積極的に学生指導に取り組みたいと思っております。

●ご趣味はなんですか？

読書（開高健など）、ジョギング（週3）、仕事です。

ワイルドな旅を企画することも好きです。

●今後の抱負をお聞かせください。

何事にも誠実に一生懸命取り組むことのできる学生を育てていきたいと思っております。また研究を通じて、地域の方々の豊かな健康を実現できるよう努めて参りますので、宜しくお願い致します。



事務部長

はつみ さだとし  
初見 定俊

●ご出身はどちらですか？

産みの親は、両親とも山形県鶴岡市。伯母の家（練馬区）に早くも生後60日で人事異動。

●本校にこられる前はどちらに？

宇宙航空研究開発機構（JAXA）契約部参事をしていました。各ミッションの契約審査、年6回の会計検査事前確認作業や検査当日の施設担当をしていました。

●徳山高専の印象は？

昭和49年夏の甲子園に野球部の同級生が東京都代表として甲子園へ連れて行ってくれた。

徳山高専も甲子園へ！・・・えっ！試験前クラブ活動禁止？・・・ロボコンや高専体育大会で頑張ってください。

●ご趣味はなんですか？

青森県大鰐町で6月に開催される「万国ホラ吹き大会」出場！ 女子ソフト「DENSO」と「日立小園投手」の「追っ掛け」。軟式野球は投手、ソフトは捕手・・・まだ現役です（笑）

●今後の抱負をお聞かせください。

By protecting others, You save yourself!

# 新任者紹介



総務課総務係

たなか しんいち  
田中 慎一

●ご出身はどちらですか？

山口県山口市です。

●本校にこられる前はどちらに？

山口大学（山口市）で学生の就職支援の仕事をしていました。

●徳山高専の印象は？

勉強やスポーツに力を入れていて、元気で礼儀正しい学生が多いと感じました。

●ご趣味はなんですか？

スポーツ観戦です。特に野球の観戦をするのが好きです。

●今後の抱負をお聞かせください。

今まで学生系の仕事をしてきたため、総務係の仕事についてはまだまだ分からない点が多いですが、日々勉強して少しでも早く学校のためになる仕事ができるようになりたいです。



総務課契約係

まつばら せいご  
松原 誠吾

●ご出身はどちらですか？

山口県周南市（地元）です。

●本校にこられる前はどちらに？

山口大学にて予算や会計の事務を担当していました。

●徳山高専の印象は？

工学部のイメージを持っていましたが、スポーツに積極的で、活気があることに驚きました。

●ご趣味はなんですか？

失敗が多いですが、レンジや炊飯器を使った簡単マイナー調理をこっそりと楽しんでいます。

趣味とはちょっと違いますが、実家の家業ということもあり、見習い神職として勉強や手伝いを頑張っています。

●今後の抱負をお聞かせください。

まだ職場に慣れていないですが、良い職場になるよう励んでいきたいと思っています。





総務課施設係

ながた こうじ  
永田 浩司

●ご出身はどちらですか？

山口県宇部市の宇部高専の出身です。

●本校にこられる前はどちらに？

宇部高専卒業後、滋賀県にあるメーカーで務めながら京都でプロボクサーをしていました。

●徳山高専の印象は？

自然に囲まれていて居心地が良く、素直で礼儀正しい学生が多い印象を受けました。

●ご趣味はなんですか？

ボクシング、マラソンです。

●今後の抱負をお聞かせください。

施設職員として、学内の安心・安全な施設管理を基盤に、教育・研究環境の発展に尽力していきたいと思っております。

## 図書館時間外開館 補助員の感想

### ■機械電気工学科5年 吉田 育矢

幼いころから本に囲まれるのが好きで、一時期は図書館の司書になろうかと考えたこともあります。徳山高専に入学し、学生が図書館の仕事をしているのを見て「いつかは自分も」と考えていました。幸運にも補助員に採用され、棚の整理や図書館の清掃などの仕事をさせていただきましたが、楽しく充実した時間でした。一年間ありがとうございました。

### ■機械電気工学科5年 三浦 美奈

月ごとにテーマを決めて入口入ってすぐのところで本の紹介をしてみましたがいかがでしたでしょうか？ 徳山高専の図書館にはみなさんの思っている以上に素晴らしい本がたくさんあります。図書の購入希望などの要望も受け付けていますので、ぜひ図書館を最大限に利用して欲しいです。

### ■情報電子工学科5年 岡崎 香

図書館補助員の仕事は、本が好きで私にとって、大変楽しいものでした。私は特に本の整理が好きでした。整理整頓が行き届いていれば気持ちも良いし、本も探しやすくなります。利用しやすい図書館になるよう、仕事に取り組みました。また、毎月テーマを決めて紹介していたおすすめの本を読んでくださっている人を見かけると大変嬉しかったです。

### ■土木建築工学科5年 守田 知弘

図書館補助員の仕事の一つでもある本の整理整頓をしていると、面白そうな本を発見することがあり、本を読む機会が増えました。また、新聞の書き取りでは、最近の社会や政治情報を知ることができました。今までは新聞に目を通そうともしなかった私ですが、この習慣はこれからもぜひ続けていきたいと思っています。一年間お世話になりました。

### ■土木建築工学科5年 山中 隆寛

図書館補助員の勤務を通じて、本の整理や返却をする中で興味を引くような本や雑誌がたくさんあることを知り、また、利用する人にとって快適な空間となるように考えて仕事をしたことで、自分にとっての“図書館”のイメージが変わりました。ぜひたくさんの方に試験勉強の時のみならず、いつでも利用してもらいたいです。

### ■土木建築工学科5年 鴻野 翼

一年間ありがとうございました。図書館には、多くの種類の本があります。その一つに車の雑誌があります。私はその本を読んでいくうちに、車に興味を持ちました。図書館を普段利用しない人たちにも来て頂きいろんな本を見てもらいたいです。そして、同じように新しいことに興味を持ってもらいたいと思います。



## 編集後記

高専だより67号をお届けします。本年度は教員、学生の活躍がいつになく目立った年でした。ハンドボール部の全国高専体育大会三連覇をはじめとする体育大会での活躍。全国高等専門学校ロボットコンテストで17年ぶりの優勝。教員の学会賞受賞。本稿編集後にも、建築甲子園全国優勝、全国高校生読書体験記コンクール入賞、日本語検定における文部科学大臣賞受賞（学校賞）、キャンパスベンチャーグランプリ入賞。。。続々とうれしいニュースが入ってきています。その一部を編集後記に写真を掲載することにしまして、詳細は来年度にご報告させていただこうと思います。待ちきれない方は本校ホームページをご高覧下さい。

さて、徳山高専は本年6月7日をもちまして40周年を迎えます。これもひとえに皆様のご支援とご協力の賜物と感謝いたします。本年9月26日には記念式典を、その前後には関連のイベントを計画しています。これまでの40年を振り返り、次代へ踏み出すきっかけとしたいと思います。今後ともご支援ご厚情を賜りますようお願いいたします。

(総合企画室長 原隆)



「建築甲子園」全国優勝



全国高校生読書体験記コンクール入賞



キャンパスベンチャーグランプリ入賞

## 徳山工業高等専門学校 Tokuyama College of Technology

### 徳山高専だより No.67

発行 総合企画室  
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台  
TEL (0834) 29-6200 (代表)  
FAX (0834) 28-7605 (代表)  
印刷 大村印刷株式会社  
発行日 2014年(平成26年)3月4日  
URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

# Tokuyama College of Technology



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）からの認定を受けています。



COLLEGE OF TECHNOLOGY  
ACCREDITED  
Mar. 2013

本校は、平成24年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。平成18年度に同機構による認証評価を得ており、引き続き認定されたものです。